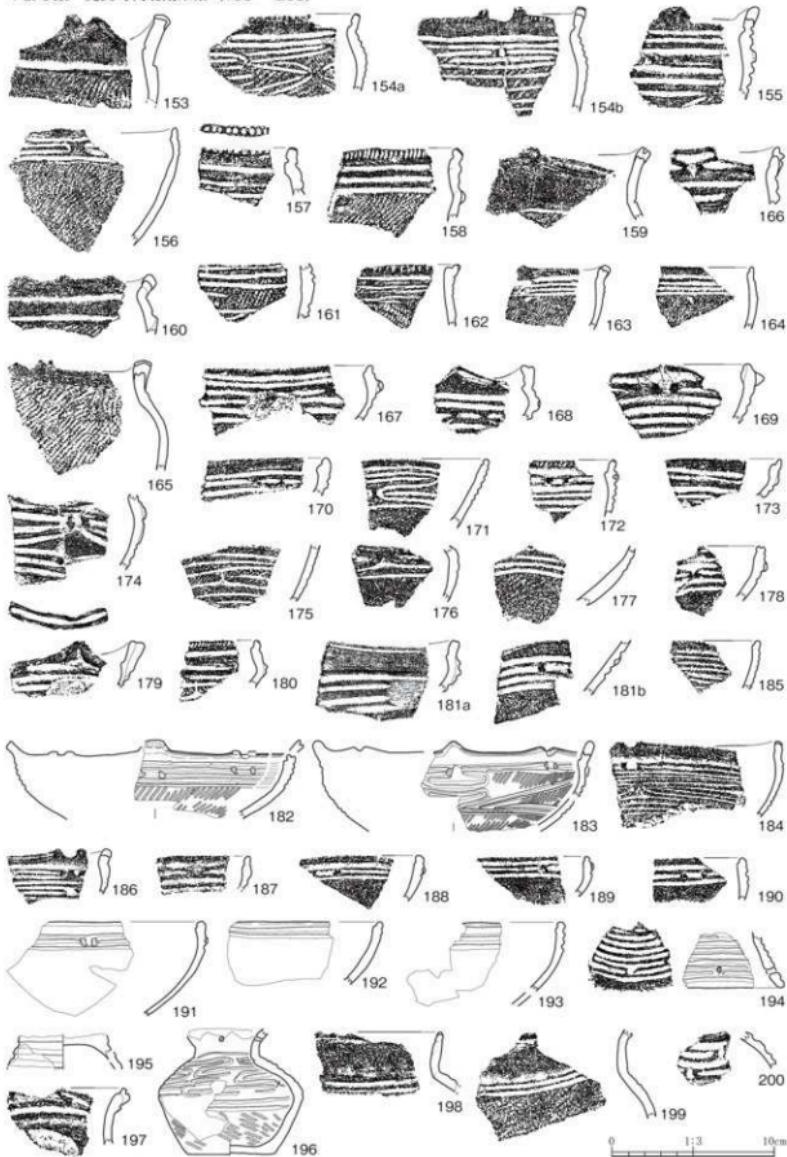
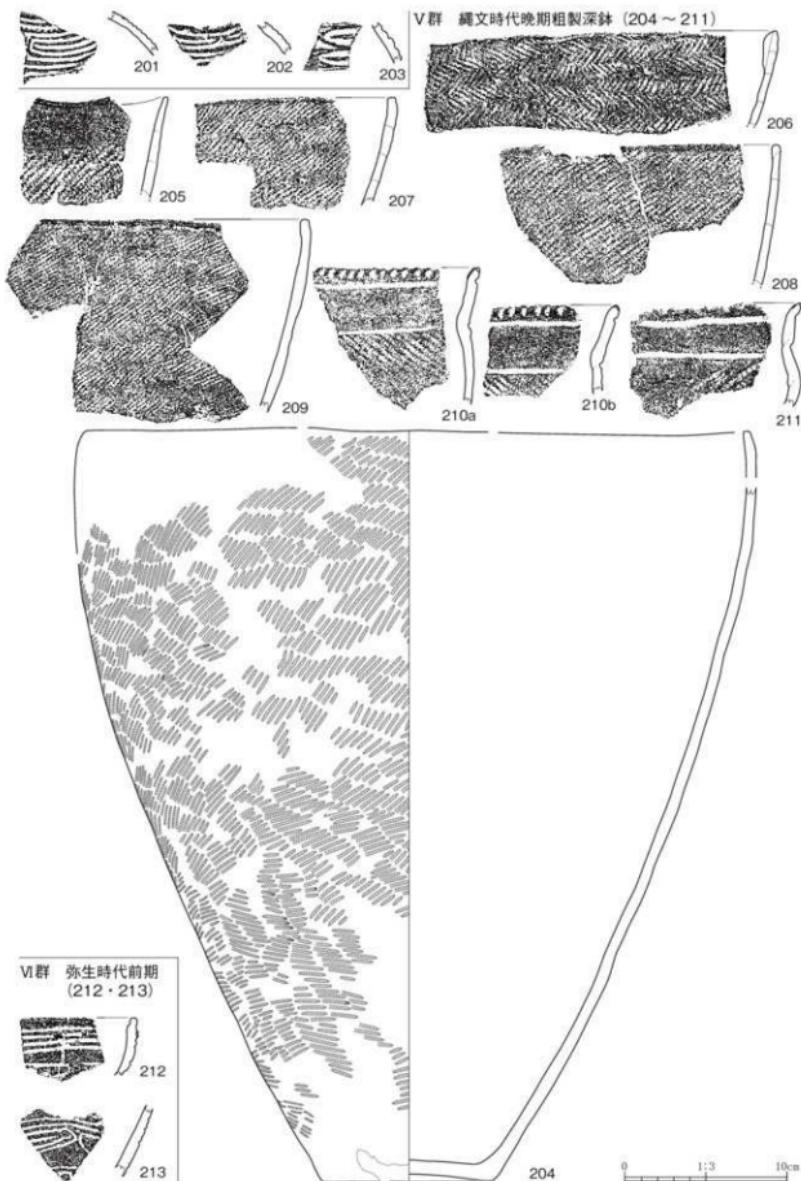


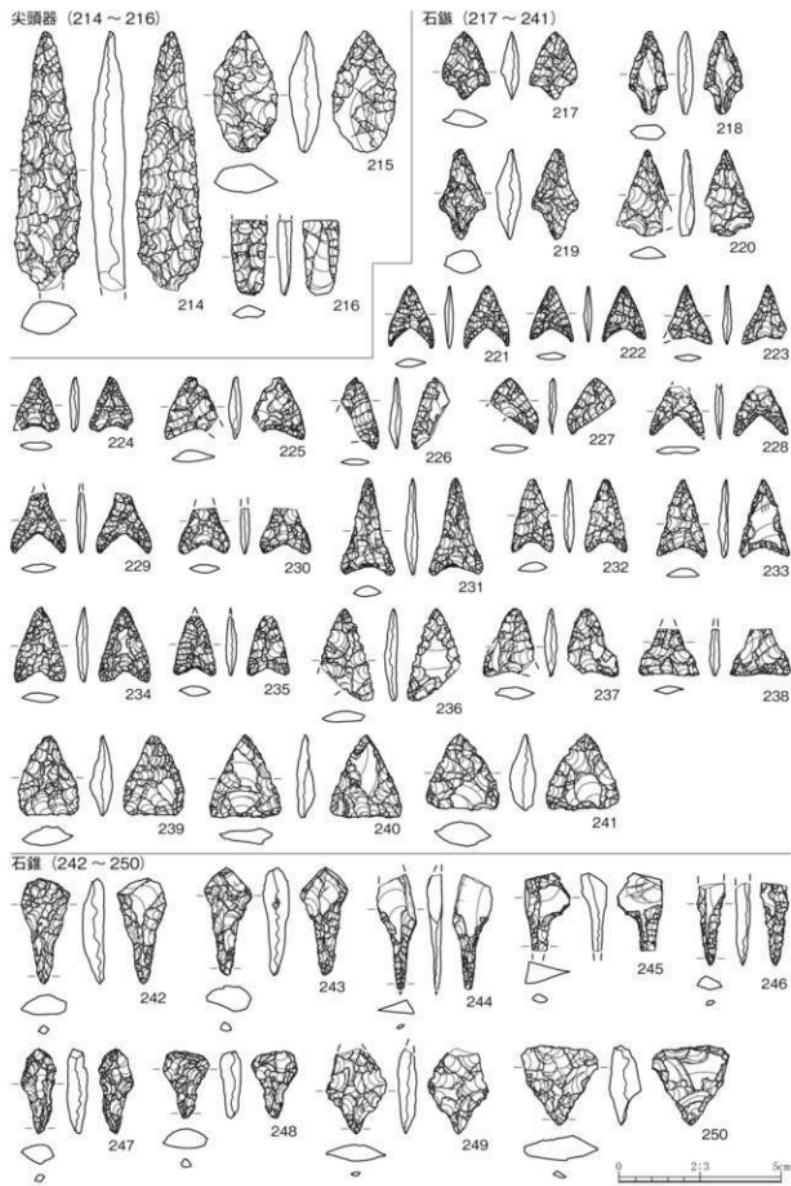
V群C類 繩文時代晩期末葉 (153～203)



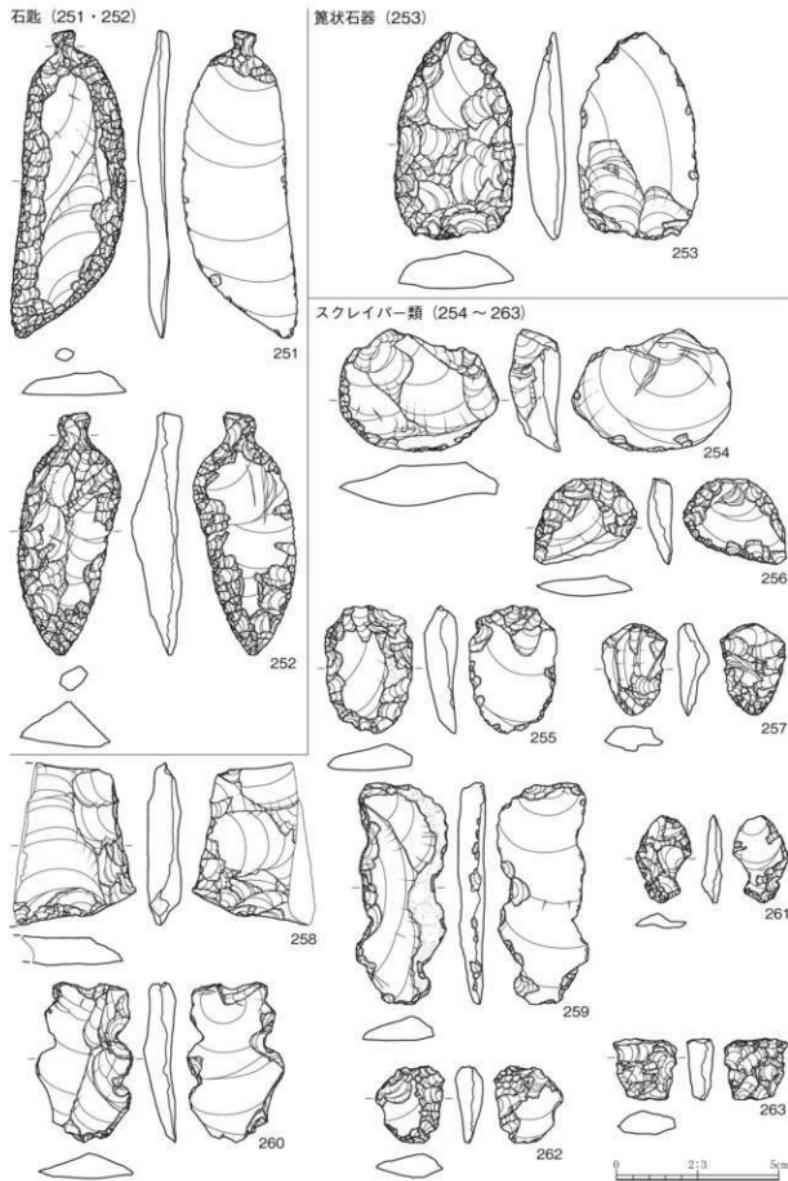
第15図 土器 (7)



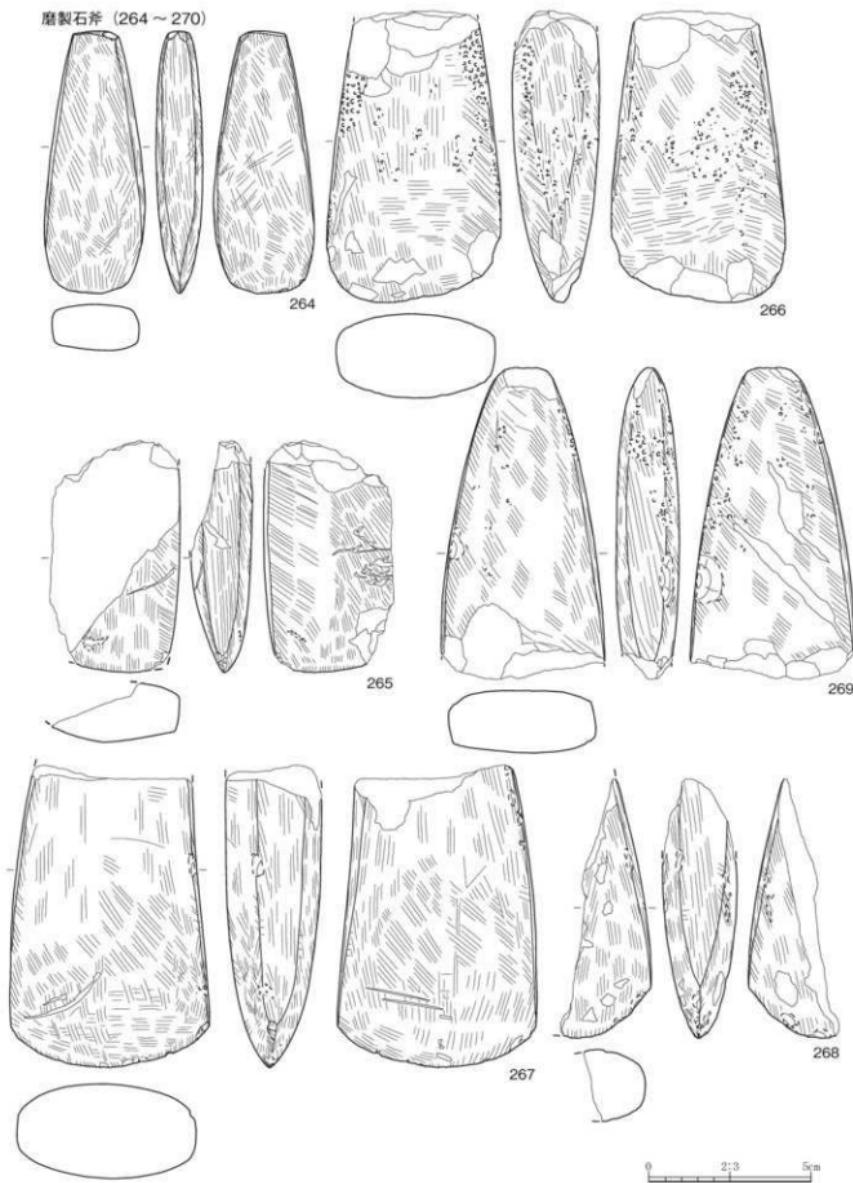
第16図 土器 (8)



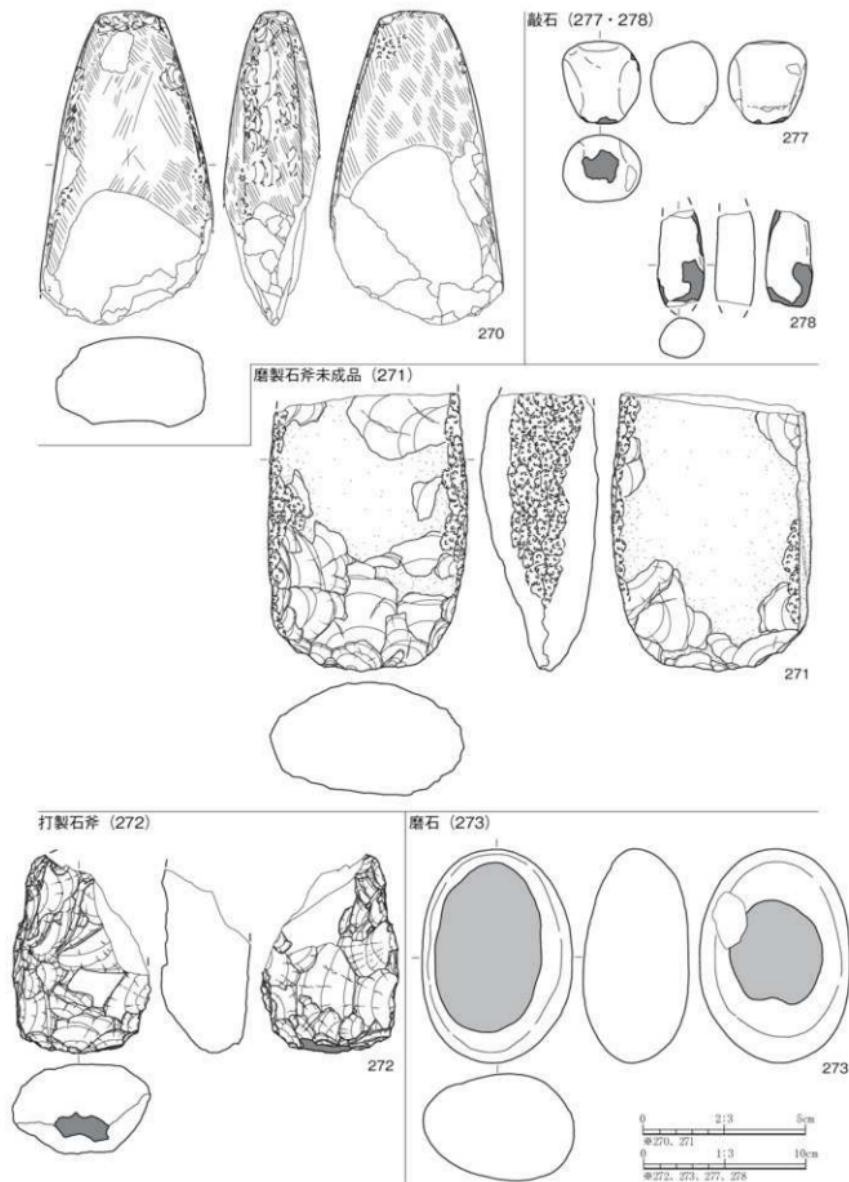
第17図 石器 (1)



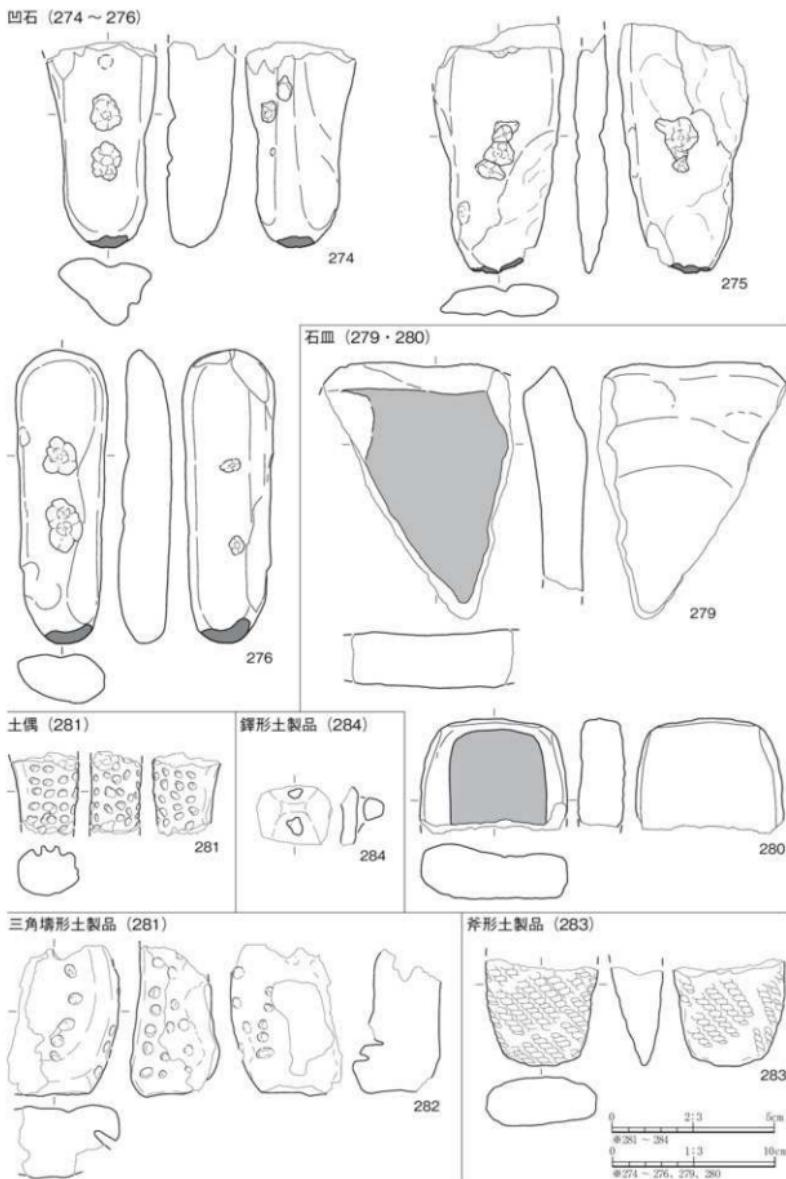
第18図 石器 (2)



第19図 石器 (3)

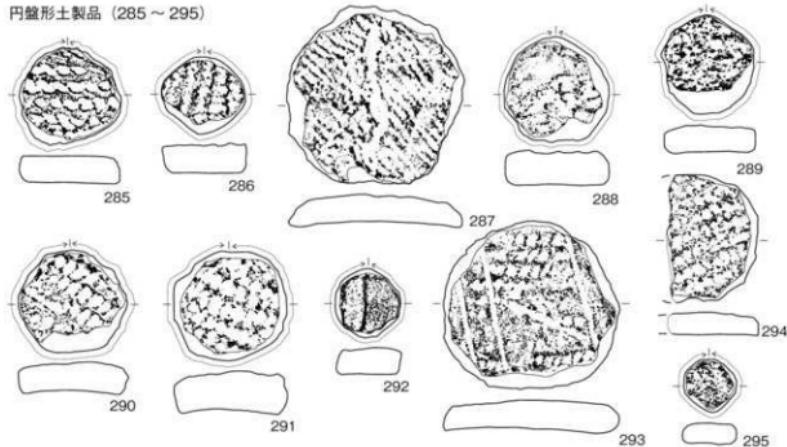


第20図 石器(4)

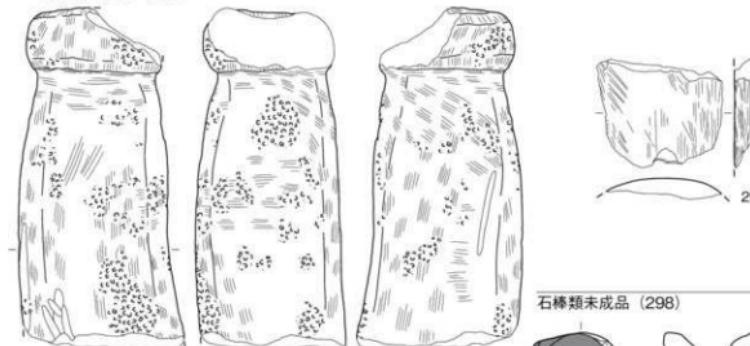


第21図 石器(5)、土製品(1)

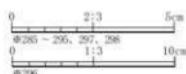
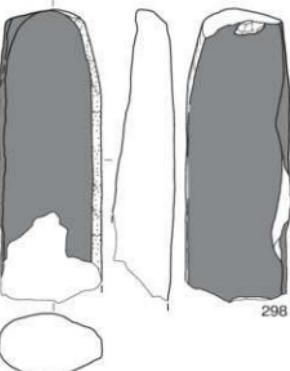
円盤形土製品 (285 ~ 295)



石棒類 (296・297)



石棒類未成品 (298)



第22図 土製品(2)、石製品

第2表 土器觀察表(1~213)

高さ m	固有 高さ	出土地点	層位	種類	分類	内訳	口径 直径 (cm)	断面 形状	内訳(概要)		施主	時期	備考	目録		
									内訳(概要)	施主						
1	1	9	7	7区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	67	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。施主は「土器を貯蔵する」。施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	47
2	2	9	7	2区	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	430	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	43
3	3	9	7	地盤	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	430	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	19	
4	4	9	7	2区	三~四層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	465	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	13
5	5	9	7	7区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	465	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	28
6	6	9	7	1区	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	465	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	27
7	7	9	7	地盤	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	470	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	32	
8	8	9	7	1区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	480	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	32
9	9	9	7	地盤	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	487	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	29	
10	10	9	7	2区	三~四層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	490	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	54
11	11	9	7	11区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	490	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	36
12	12	9	7	11区00P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	633	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	24
13	13	9	7	11区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	635	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	35
14	14	9	7	11区00P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	38
15	15	9	7	2区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	42
16	16	9	7	11区00P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	613	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	48
17	17	9	7	1~2層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	646	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	15	
18	18	9	7	11区	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	14
19	19	9	7	1区	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	6
20	20	9	7	地盤	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	613	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	46	
21	21	9	7	7区01P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	633	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	37
22	22	9	7	地盤	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	21	
23	23	9	7	1区	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	630	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	2~30
24	24	9	7	2区	三~四層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	650	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	23
25	25	10	8	11区00P	三層	縄文土器	1.8	深井	口端部 直角底	-	-	676	平成2年1月上旬の雨季に於ける調査で、施主は「土器を貯蔵する」。	他社宅 中間部屋	大木10号古墳	280

測量 No.	写真	出土遺物	層位	種類	分類	内容記述	計測値 (cm)	測量	内面調査・ 塗装など	鉢土	時間	備考	日 数
26 9 7	25区	三層	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(63) 陶器の底盤に付いた漆喰の痕跡。底盤 上に漆喰を施す。	小瓶本體	大手10式新規形	45	
27 9 7	相模町	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(65) 陶器の底盤に付いた漆喰の痕跡を有する 底盤を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	68		
28 9 7	21-31区	2-1層	埴生土	I C	器物	側部	-	-	(49) 陶器の底盤に付いた漆喰の痕跡を有する 底盤を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	121	
29 10 7	豊川100番2	11区02番	埴生土	I C	器物	口縁部～ 側部上半	(222)	-	(118) 陶器の底盤に付いた漆喰の痕跡を有する 底盤を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	285	
30 10 8	11区02番	3層	埴生土	I C	器物	側部上半	-	-	(161) 陶器の底盤に付いた漆喰の痕跡を有する 底盤を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	27	
31 10 7	21区01P	2-1層	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(75) 陶器の底盤に付いた漆喰を残す。	小瓶本體	大手10式新規形	44	
32 10 7	相模町	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(65) 陶器の底盤に付いた漆喰を残す。	小瓶本體	大手10式新規形	7		
33 10 8	11区02番	3層	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(67) 平底か、或は底盤に付いた漆喰を有する。 底盤を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	10	
34 10 8	12区01	3層	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(72) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	145	
35 10 8	12区	3層	埴生土	I C	器物	口縁部	-	-	(62) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	147	
36 10 8	豊川100番1	11区03番	埴生土	I C	器物	側部下～ 底盤	(325)	-	陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式新規形 底盤を有する。	287	
37 11 8	豊川100番2	11区03番	埴生土	I C	器物	側部下～ 底盤	-	-	(65) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式新規形	288	
38 11 8	11区02番	3層	埴生土	I	器物	底盤	-	-	(112) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式	266	
39 11 8	11区01P	3層	埴生土	I	器物	底盤	-	-	(133) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式	272	
40 11 8	相模町	埴生土	I	器物	底盤下～ 二ナメ	-	-	-	(26) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	大手10式 底盤を有する。	269	
41 11 8	1-11区	3層部分	埴生土	I	器物	底盤下～ 二ナメ	-	-	(41) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	小瓶本體	中間本體	310	
42 11 9	相模町	埴生土	II A	器物	口縁部	-	-	(78) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	長颈瓶	門田式第2形	62		
43 11 9	相模町	埴生土	II A	器物	口縁部	-	-	(75) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	長颈瓶	門田式第2形	63		
44 11 9	23区	3-1層	埴生土	II A	器物	口縁部	-	-	(18) 陶器底盤に付いた漆喰を有する。	長颈瓶	門田式第2形	80	
45 11 9	15区	3層	埴生土	II A	器物	口縁部	(185)	-	大底盤(14.5cm)、底盤に付いた漆喰を有する。 底盤を有する。	長颈瓶	門田式第2形	283	
46 11 9	12-21区	2-1層	埴生土	II A	器物	側部	-	-	(72) 5寸六方を有する。	長颈瓶	門田式第2形	142	

通報 No.	写真	出土場所	層位	種類	分類	内容の文書	計測値 (cm)	寸法	説明	内面調査・ 裏面など	紙質	肉眼	備考	良否 %
47 11 9 12区 1号	1号	埴生土層	Ⅲ A	封筒	封筒	（47）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（47）	表面糊付	門松大字318番地	165		
48 11 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ A (裏)	封筒	封筒	（48）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（48）	表面糊付	門松大字318番地	61		
49 11 9 12区 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（49）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（49）	表面糊付	門松大字318番地	67		
50 11 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（50）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（50）	表面糊付	門松大字318番地	100		
51 11 9 22区(1) 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（51）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（51）	表面糊付	門松大字318番地	78		
52 12 9 14区 1号 - 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（52）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（52）	表面糊付	門松大字318番地	292		
53 11 9 22区(1) 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（53）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（53）	表面糊付	門松大字318番地	107		
54 11 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（54）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（54）	表面糊付	門松大字318番地	112		
55 11 9 11区(1) 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（55）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（55）	表面糊付	門松大字318番地	109		
56 11 9 14区 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（56）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（56）	表面糊付	門松大字318番地	114		
57 11 9 6号 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（57）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（57）	表面糊付	門松大字318番地	117		
58 11 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（58）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（58）	表面糊付	門松大字318番地	113		
59 12 9 22区(1) 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（59）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（59）	表面糊付	門松大字318番地	220		
60 12 9 12区(1) 1号	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（60）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（60）	表面糊付	門松大字318番地	66		
61 12 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（61）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（61）	表面糊付	門松大字318番地	65		
62 12 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（62）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（62）	表面糊付	門松大字318番地	87		
63 12 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（63）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（63）	表面糊付	門松大字318番地	126		
64 12 9 他通手	1号	埴生土層	Ⅲ B	封筒	封筒	（64）文に「上記封筒を用ひて、保函を文書として運びて貯金を預けたる旨」とある。口印記は「上記封筒」である。	-	-	（64）	表面糊付	門松大字318番地	69		

測量 No.	写真	出土遺物	器種	種類	分類	目録	計測 (cm)	内容記述・ 文など	鉢	片口	内側裏 文など	鉢	片口	備考	割合 %
106 13 10 25区	3号	陶土器	三	直筒	口縁部一側斜	-	(15.2)	手縫い。口縁部に斜めに2箇所、側面に1箇所、底面に1箇所を有する。側面は、斜めに2箇所、底面は1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	30
107 13 10 4号	三号	陶土器	三	直筒	口縁部	-	(3.9)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。側面は、斜めに2箇所、底面は1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	97
108 13 10 相模舟	陶土器	三	直筒	口縁部	-	(6.0)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。側面は、斜めに2箇所、底面は1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	73	
109 13 10 15区	3号	陶土器	五 A	直筒	口縁部	-	(6.1)	大底面に2箇所、側面に1箇所を有する。側面は、斜めに2箇所、底面は1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	98
110 13 10 乾舟	陶土器	五 A	直筒	口縁部	-	(6.0)	大底面に2箇所、側面に1箇所を有する。側面は、斜めに2箇所、底面は1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	94	
111 13 10 16~16区	三~五号	陶土器	五 A	片	口縁部	-	(4.2)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	116
112 13 10 12区	三号	陶土器	五 A	直筒	口縁部	-	(4.4)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	134
113 13 10 20区	三号	陶土器	五 A	直筒	口縁部	-	(3.7)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	209
114 13 10 12区	3号	陶土器	五 B	直筒	口縁部一側斜	-	(6.5)	手縫い。口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	88
115 13 10 15区	3号	陶土器	五 B	直筒	口縁部	-	(2.7)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	133
116 14 10 13区	三号	陶土器	五 C	直筒	脚部	-	(6.0)	多段状。内側底付に2箇所、側面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	140
117 14 10 12区	三号	陶土器	五 C	直筒	脚部	-	(4.0)	多段状。内側底付に2箇所、側面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	99
118 14 10 5区	三号	陶土器	五 C	直筒	脚部	-	(3.7)	脚部が口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	204
119 14 10 2~3区	三~五号	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(6.2)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	123
120 14 10 21~21区	三~五号	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(6.0)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	254
121 14 10 乾舟	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(6.0)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	103	
122 14 10 乾舟	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(6.5)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	92	
123 14 10 不明	1~五号	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(6.7)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	83
124 14 10 21~21区	三~五号	陶土器	五 D	直筒	脚部	-	(4.7)	口縁部に斜めに2箇所、底面に1箇所を有する。	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	-	-	内側裏文なし。(鉢 底)	203

通報 No.	写真	出土場所	層位	古墳			古墳の文	古墳の文	内蔵遺物・施文化など			鉢土	附註	備考	E& %
				上口徑	下口徑	厚			上口徑	下口徑	厚				
125a	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	96
125b	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	104
126	14	10	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	90
127	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	89
128	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	294
129	14	11	三層	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	265
130	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	166
131	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	183
132	14	11	12-Ⅴ(1)	三層	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	111
133	14	11	13-Ⅴ	三層	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	173
134	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	131
135	14	11	12-Ⅴ(1)	三-Ⅴ(1)	埴生土器	埴生	-	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	180
136	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	365
137	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	206
138	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	234
139	14	11	4-Ⅳ	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	223
140	14	11	17-Ⅴ	三層	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	198
141	14	11	1-2-Ⅳ	三-Ⅴ(1)	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	237
142	14	11	小町	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	204
143	14	11	7-17-Ⅴ	三層	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	226
144	14	11	地盤時	埴生土器	埴生	13.15	13.15	-	-	-	-	埴生土器	埴生土器	埴生土器	193

測量 No.	写真	出土場所	層位	種類	字幅	内容文書	計測値 (cm)	測量	内側横幅・高さなど	鉢土	時間	備考	日付 年
145 14 11	地盤内	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(4)	周灰は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面を除く。底面は白色で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦に2列の文字が有る。文字内は文字を有する。 縦文LR部から底面まで2列。縦文文様と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	205	
146 14 11 2区	Ⅲ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(3)	縦文文様を有する文字の内容が底面より上 部に記入されている。縦文文様と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (6) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	229	
147 14 11 12区	Ⅲ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(6)	縦文文様を有する文字の内容が底面より上 部に記入されている。縦文文様と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (6) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	172	
148 14 11 12区	Ⅲ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(3)	縦文LR部を有し、縦文は上部の内容が底面に より下部に記入されている。縦文文様と矢印文 様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 二	地盤小面	大網C式 (3) 二	地盤小面	244 229	
149 14 11 21-31区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(3)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	296	
150 14 11 12区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(3)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 二	地盤小面	大網C式	地盤小面	227	
151 14 11 2-3区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	190	
152 14 11 12区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V B	鉢	約5cm	一	(4)	縦文LR部を有する文字の内容が底面より上 部に記入されている。縦文文様と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網C式	地盤小面	206	
153 15 11 14区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(6)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (6) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	200	
154a 15 11 1区 GDP	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	186	
154b 15 11 1-11区	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(6)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (6) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	190 218	
155 15 11 1区 GDP	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(5)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (5) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	219	
156 15 11 地盤内	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(2)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (2) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	175	
157 15 11 地盤内	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(2)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (2) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	182	
158 15 11 21-31区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	252	
159 15 11 1区から	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	119	
160 15 11 地盤内	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(3)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	237	
161 15 11 21-31区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	257	
162 15 11 地盤内	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(3)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	258	
163 15 11 1区から	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(4)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (4) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	228	
164 15 11 1-2区	Ⅲ-Ⅳ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(3)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (3) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	247	
165 15 11 11区 GDP	Ⅲ層	周灰土層	V C	鉢	約5cm	一	(6)	縦文は黒褐色で小粒状のもので、内側は白い土質で、底面部分 が少し突出を有する。底面の内側には、縦文と矢印文様。(矢印文様は矢印を左へ向ける) (6) 一	地盤小面	大網A式	地盤小面	118	

測量 No.	写真 No.	出土遺物		部位	種類	分類	有文位置	計測値 (cm)	測定値 (cm)	内側面・裏など		地質	附註	備考	E%
		高さ	幅							左側	右側				
207	16	12	相思子				周上部	Y.A. 小	部分	—	—	6.60	下端、楕円文LR値を今前にして居る。	相思子	15%
208	16	12	相思子				周上部	Y.A. 小	部分	—	—	6.60	平底、楕円文LR値を今前にして居る。	相思子	16%
209	16	12	相思子				周上部	Y.A. 小	部分	—	—	6.60	ダラヌヌ	相思子	16%
210	16	12	相思子	3 - 直口			周上部	Y.A. 小	部分	—	—	6.60	下端、楕文LR値を今前にして居る。	相思子	15%
210a	16	12	1.5φ	3 - 玉器			周上部	Y.B. 小	部分	—	—	6.30	上端部に刻文。下端部は平行線に2.5mmの 平行線。斜面に刻文。斜面に刻文。	相思子	77
210b	16	12	1.2φ	3 - 直口			周上部	Y.B. 小	部分	—	—	6.50	直口部に刻文。下端部は平行 線上に「ス」字状の文。	相思子	127
211	16	12	1.3φ	3 - 直口			周上部	Y.B. 小	部分	—	—	6.30	直口部に「ス」字状の文。	相思子	144
212	16	12	相思子				周上部	Y.I.	部分	—	—	6.30	直口部に刻文。下端部は平行線で、又斜面に刻文。 斜面に2個の窓。	相思子	211
213	16	12	相思子				周上部	Y.I.	部分	—	—	6.30	直口部に2個の窓。斜面に刻文。	相思子	220

第3表 石器観察表 (214~290)

() : 没存箇

測線 No.	測線 名	出土地点	測定点	標高	石質	種類	石質	面積 (m ²)	計測値 (cm)	面積 (a)	備考	測線 名	
											最大長 度	最小幅 度	
234	17	13 2K	黒留 - 頂上	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.20	1.26	0.32	0.19	無形状地	S19
235	17	13 SW露	塙山	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	1.80	1.26	0.32	0.18	無形状地、表面に黑色付着物あり。生垣筋	S21
236	17	13 21-22 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.73	1.00	0.20	0.12	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S26
237	17	13 13-23 K(?)	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.11	1.51	0.28	0.19	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S27
238	17	13 21 K	黒留	石塊	頁岩頁岩	北上山地	北上山地	1.41	1.82	0.30	0.16	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S29
239	17	13 黒 1.4	黒留	石塊	褐色頁岩	北上山地	北上山地	2.44	1.86	0.69	0.22	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S8
240	17	13 16 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.52	2.17	0.47	0.22	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S12
241	17	13 21 K(?) - (24)	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.22	2.22	0.27	0.20	無形状地、表面に黑色付着物あり。	S13
242	17	13 21-31 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	3.22	1.53	0.66	0.25	先端部に褐色付着物あり。	S27
243	17	13 15 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.26	1.45	0.77	0.24		S30
244	17	13 17 K(?)	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	1.22	0.67	1.2	1.2	先端部、黒留欠	S29
245	17	13 16 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	0.41	1.43	0.26	0.15	先端部欠	S34
246	17	13 6 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	0.46	0.86	0.40	0.07	身体に黑色付着物あり。基部欠	S28
247	17	13 6 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.60	1.06	0.60	0.15		S31
248	17	13 2 K	黒留 - 頂上	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.03	1.41	0.63	0.13	先端部に褐色付着物あり。	S33
249	17	13 21-22 K(?)	黒留 - 頂上	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	0.80	1.86	0.57	0.21	基部欠、右側から左側への傾斜性もあり	S32
250	17	13 12 K	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	2.39	2.38	0.88	0.38	右側から左側への傾斜性もあり	S35
251	18	13 黒 1.6	黒留	石塊	頁岩	北上山地	北上山地	0.29	3.22	0.78	0.24	傾斜	S48
252	18	13 1 K	黒留上	石塊	チヤーポ	北上山地	北上山地	7.44	2.90	1.40	2.06	傾斜	S49
253	18	13 1-2 K	黒留 - 頂上	黒化頁岩	頁岩	北上山地	北上山地	6.34	3.60	1.14	2.76	褐色付着物	S50
254	18	13 1 K(?)	黒留 - 頂上	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	3.97	4.89	1.19	2.52		S37
255	18	13 1 K(?)	黒留 - 頂上	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	3.97	2.20	1.03	1.03		S38
256	18	13 21-22 K(?)	黒留 - 頂上	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	2.50	3.22	0.63	0.51	裏面に黑色付着物あり	S43
257	18	13 2 K	黒留	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	2.80	1.99	0.66	0.44	両側傾斜、右側底面の可動性もあり	S40
258	18	14 剥離物	剥離物	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	4.06	3.76	0.91	1.75		S39
259	18	14 1 K(?)	黒留	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	6.70	2.79	0.80	1.73		S36
260	18	14 21 K(?) (WOP)	黒留	スクレーパー	頁岩	北上山地	北上山地	4.93	2.96	0.82	1.12	ダガリ痕あり、剥離 - 基部欠	S44
261	18	14 2 K	黒留	スクレーパー	褐色頁岩	北上山地	北上山地	2.66	1.70	0.61	1.16	石炭化品の可動性あり	S41
262	18	14 16 K	黒留	スクレーパー	褐色頁岩	北上山地	北上山地	2.32	2.02	0.84	3.4	石炭化品の可動性あり	S42
263	18	14 2 K	黒留	スクレーパー	頁岩頁岩	北上山地	北上山地	1.96	1.92	0.63	0.32	両側傾斜、左側底面の可動性あり	S45
264	19	14 3 K	黒留上	帶鉄石	アオミタク	日高山地	日高山地	0.65	3.06	1.40	0.90	ガジク痕あり、削出物もしくは未利用人の出窓性あり	S54
265	19	14 12 K(?)	黒留	帶鉄石	帶鉄石	北上山地	北上山地	6.10	0.95	0.170	0.52	基部断面(2段)欠	S51
266	19	14 1-2 K	黒留	帶鉄石	人頭骨	北上山地	北上山地	0.90	5.39	2.69	2.00	基部欠、左側欠	S32
267	19	14 21-22 K	黒留	帶鉄石	砂岩	北上山地	北上山地	0.91	5.56	2.30	2.68	同上、ガジク痕あり、基部欠	S53
268	19	14 17 K	黒留	帶鉄石	通水	北上山地	北上山地	6.90	0.80	0.220	4.21	同上、左側欠	S55
269	19	14 23 K	黒留	帶鉄石	網狀骨骼	北上山地	北上山地	0.90	5.07	1.93	1.20	弓形欠	S56

測量 No.	圖 號	出土地點	層次	種類	石質	斷面 (工具名)	斷面 (人名)	最長 寬 高 (cm)	直徑 (cm)	備考
270	20	14	地盤時	帶鋸齒狀 帶裂石未成熟	砂岩 小孔ノツルス	北上山地 北上山地	(652) (657)	2.82	181.5	月面圓12.12.1.欠
271	30	15	地盤時	打鑿石	砂岩 人字波磨輪	北上山地 北上山地	(650) (658)	3.56	276.5	製作中で火照少、表面圓12.1.1.欠
272	30	15	21K	Ⅲ層	砂岩	北上山地 人字波磨輪	(1206) (659)	5.40	627.9	表面圓2.3.欠
273	20	15	22K	Ⅲ層	帶石	社石 人字波磨輪	北上山地 北上山地	1308	6.61	1199.5 石被圓2.2.5
274	21	15	12(瓦石群)	Ⅲ層	凹石	施氏共谷岩 人字波磨輪	北上山地 北上山地	(1251) (657)	4.06	405.8 滑落し搬行あり、表面凹
275	21	15	地盤時	凹石	ホルノツルス	北上山地 北上山地	1320	6.80	2.12	332.9 滑落し搬行あり、表面凹
276	21	15	12(瓦	Ⅲ層	凹石	人字波磨輪 人字波磨輪	北上山地 北上山地	1812	5.62	467.5 滑落し搬行あり
277	20	15	11K	II-Ⅲ層	敲石	砂岩 人字波磨輪	北上山地 北上山地	5.12	4.13	137.0
278	20	15	12(瓦	Ⅲ層	敲石	砂岩	北上山地	(6520)	2.84	2.45
279	21	15	21K	Ⅲ層	石塊	アゲハナト 牛軛共谷	北上山地 北上山地	(11567)	3.68	753.2 表面凹
280	21	15	11K	Ⅲ層	石塊	チキイシト チキイシ	奥羽山地 奥羽山地	(6527)	9.12	3.36
									160.8	搬行あり、1.2.欠
										567

第4表 土製品観察表 (281~295)

測量 No.	測量 回	写真 No.	出土地点	部位	種類	現存部数	前面標識 (cm)		背面	外面文様・模様など		背面文様・模様など	出土	時間	備考	登録 No.
							左側 面	右側 面		底面	底面大端 底面小端					
281	21	16	17区	Ⅱ層	土器	左側面 底面	2.1	1.5	斜面文	底面	底面大端 底面小端	底面	底面	底面	底面	2
282	21	16	1区 CP1 (住居)	土器	三脚博形土器	底面	4.5	3.1	2.2	3.5	斜面文	底面	底面	底面	底面	3
283	21	16	2区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	底面のみ	6.0	4.5	1.5	14.8	陶文	底面	底面	底面	底面	4
284	21	16	5区	Ⅱ層	深形土器	底面	6.8	4.3	1.3	3.3	直溝文	底面	底面	底面	底面	4
285	22	16	7区(住居)	Ⅱ層	円錐形土器	完形	2.9	2.1	0.8	9.5	斜面文のほかきえん形(後), 直溝文(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	1
286	22	16	2区(住居)	Ⅱ層	円錐形土器	完形	2.4	2.6	0.9	6.3	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	1
287	22	16	2区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	5.5	5.4	0.9	10.8	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。斜面に各点刻。	底面	底面	底面	底面	27
288	22	16	2区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	3.5	3.4	1.1	11.6	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。底面削落。	底面	底面	底面	底面	23
289	22	16	15区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	3.1	2.9	0.8	7.8	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。底面削落。	底面	底面	底面	底面	36
290	22	16	23区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	3.2	3.4	0.9	11.1	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	48
291	22	16	23区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	3.4	3.5	1.2	10.6	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	42
292	22	16	13~23区(住居)	Ⅱ層	円錐形土器	完形	2.2	2.0	0.8	4.0	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	25
293	22	16	21~30区	Ⅲ-Ⅳ層	多孔土器	完形	5.1	5.5	0.9	28.4	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。底面削落。	底面	底面	底面	底面	31
294	22	16	集落	Ⅳ層	多孔土器	2.3段残	3.9	2.8	0.7	9.8	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	194
295	22	16	不明	多孔土器	完形	1.7	1.7	0.6	1.6	斜面文のほかきえん形(前)あり。陶文有り。	底面	底面	底面	底面	41	

第5表 石製品観察表 (296~298)

測量 No.	測量 回	写真 No.	出土地点	部位	種類	石質	表面	底面	大きさ	表面標識 (cm)		底面	時間	備考	登録 No.
										底面 大端 小端	底面 大端 小端				
296	22	16	西面山平	横出	石棒	石棒類	磨耗	北上山地・東山西南岸	北上山地	G(1.11)	0.76	2041.7	無	2	
297	22	16	1~11区	Ⅲ層	石棒	石棒類	ホルンフェルス	北上山地	豊原城行・みや町	G(3.40)	0.78	0.770	9.1	無	1
298	22	16	2区	Ⅲ層	石棒	石棒類	ホルンフェルス	北上山地	高丘山のみや町	G(8.96)	3.27	1.91	84.6	無	3

V 二日市貝塚の調査

1 調査区の位置と沿革

二日市貝塚は、陸前高田市気仙町字二日市に所在する。第24図に遺跡範囲と周辺の地形図を示したとおり、遺跡は長部漁港の北側に位置し、「恵比寿鼻」と呼ばれる岩礁が連なっていた海岸線の西側にある丘陵西端に立地する。これは、起伏の大きい山地が沈水し、生じた樹枝状の入り江を持つリニア海岸の一部で、鼻先のように海に突き出た形で残ったものである。現在の海岸部は埋め立てられており、水産加工場などが点在する平地となっている。また、遺跡の西側には、北上山地から連なる標高500m以下の低山性山地が迫り、さらに西には標高500mを超える中山性山地がそびえる。北西には、本丘陵に連なる横手山(335.2m)があり、また南西には長部川を挟んで笹長根山(519.9m)が控えている。

遺跡は標高5~39mにあり、丘陵西端から海岸線へと下る南側の斜面も含まれる。調査区の現況は東西に隣接する住宅の間にある宅地・畠地で、標高33~34mの地点である。

本遺跡の遺跡範囲は、二日市館の遺跡範囲西側と重なっている。二日市館は、岩手県中世城館跡分布調査報告書によると、「主郭は丘陵東端、標高約50m、南北80m東西50mの平場。東側崖下には県道が走り館の南を巡って、漁港へと続く。東西部の腰郭が南へ張り出し二の郭となる。南面は近年の港湾道路改修により変更されるが、主郭、二の郭と空堀を隔て三の郭が付く。さらに西も腰郭状に段が付くが、宅地化し判然としない。主郭南東部は、かつて恵比寿鼻の岬が突き出し、出郭があった。現在は港湾改修により消滅した」と記載されている(岩手県教委 1986)。本遺跡範囲は、二日市館の西側の腰郭状の段部分にあたり、中世の遺構が広がる可能性もあった。

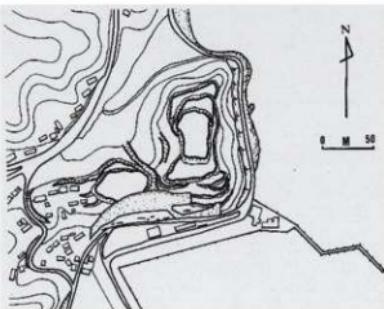
中世の長部地域では、15世紀初頭頃に矢作千葉氏の一族である千葉慶宗(高田城主千葉重慶の二男)が長部館に居を構え、やがて長部氏を称する。長部館の所在地について、『岩手県の地名』(平凡社 1990)や『陸前高田市史』では本掲載の二日市館の場所としているが、『長部村風土記御用書出』や『氣仙風土草』などの近世地誌では「今野助九郎」を城主としており、長部千葉氏については一切触れられていない。今野助九郎は、天正18年(1590)の葛西・大崎一揆において討死したと伝わる。今野助九郎と長部千葉氏との関係は不明であるが、長部千葉氏の家臣もしくは、長部千葉氏の後に長部地域を統治した可能性が考えられる。また、伊達領となった直後の文禄元年(1592)には伊達氏家臣鈴木宗記が城代として二日市城に駐屯したとの記録がある(岩文理 2015)。

参考文献((公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは岩文理と表記する)

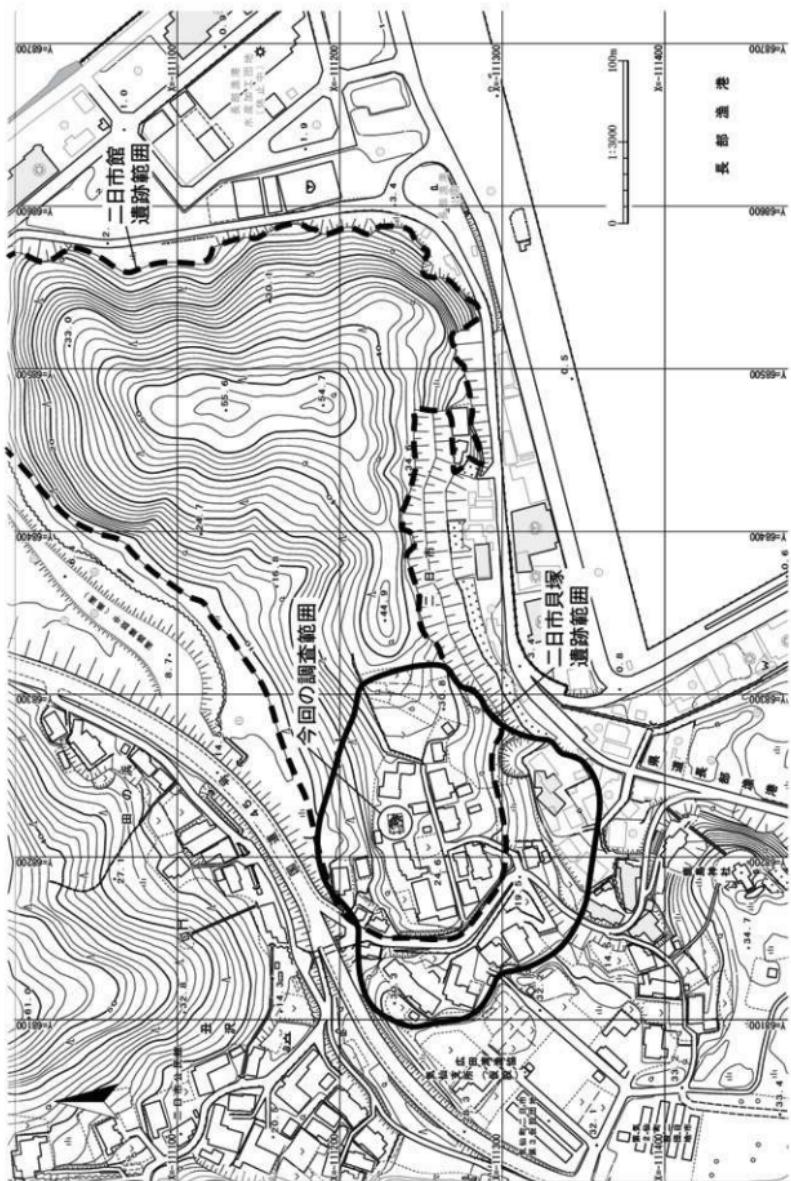
岩手県教委 1986『岩手県中世城館跡発掘調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集

岩文理 2015『花館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第638集

岩文理 2018『高田城跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第691集



第23図 二日市館縄張図(岩手県教委 1986 から転載)



第24図 遺跡範囲と周辺の地形図

2 基本層序

今回の基本層序は、調査区西壁と北壁断面の土層から以下に大別される。調査区の大半は、宅地造成による搅乱で、I層表土直下にIV層が露出する状況であった。

I層	にぶい黄褐色土	表土・宅地造成土	層厚 0.2 m
II層	褐色土		層厚 0.2~0.3 m
III層	黒色土		層厚 0.3 m
IV層	灰黄褐色土		地山

3 調査の経過

平成27(2015)年5月12日に調査を開始し、同年6月30日に調査を終了した。詳しい調査の経過については、現場日誌などの記録がないため不明である。

4 検出遺構

(1) 概要

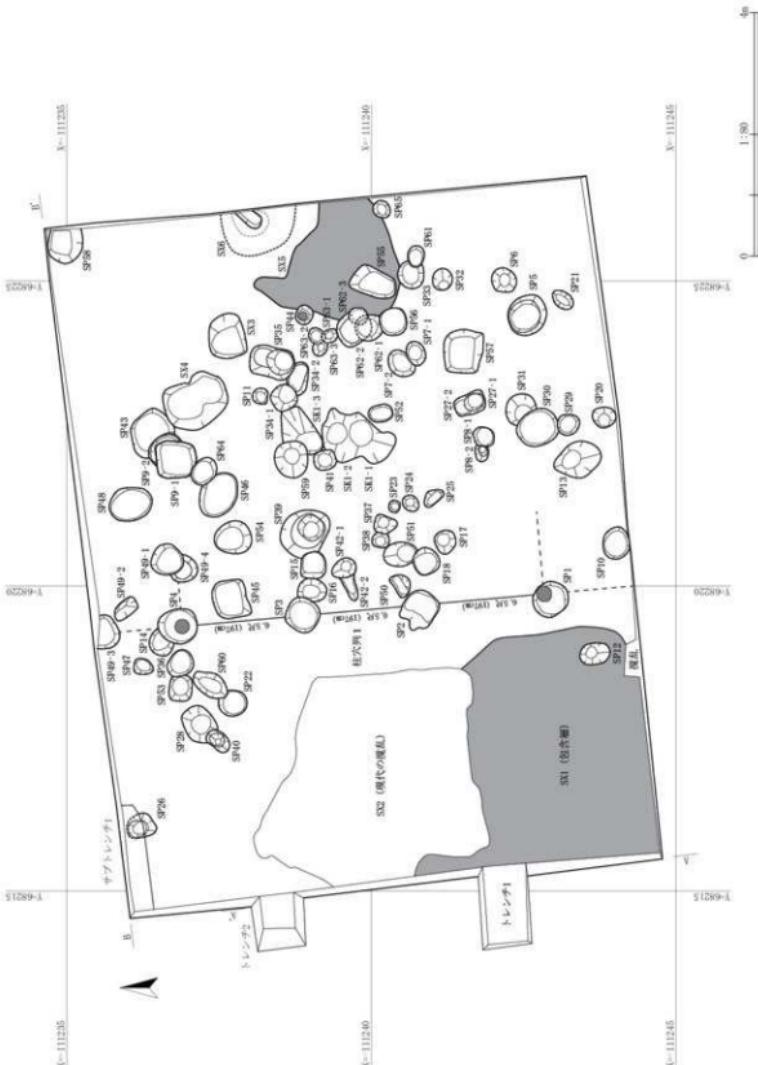
今回の調査から、縄文時代後期～晩期の性格不明遺構2基と倒木痕1箇所、弥生時代中期の遺物包含層1箇所、中世～近世の柱穴列1条、土坑1基、柱穴状ピット78個、現代の性格不明遺構1基を確認した。

第25図に調査全体図を示した。遺構は、狭小な調査区全体に広がっており、特に中央から東側にかけて柱穴状ピットが密集して検出されている。遺構同士の切り合いが多くあり、中世～近世にかけて複数の時期に掘立柱建物群が形成されたと考えられるが、いずれも遺構全体を把握するには至らなかった。遺物包含層としたSX1は、弥生土器を集中して出土しており、今後の調査によっては堅穴住居跡などに変更される可能性もある。また、調査地点は以前、宅地として利用されていたこともあり、SX2をはじめとする大小の搅乱が多く認められた。

(2) 柱穴列

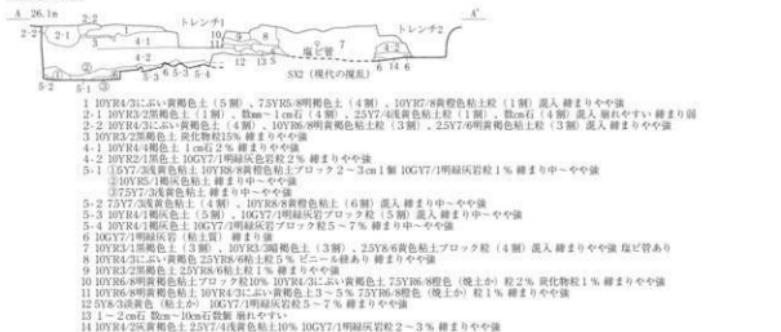
柱穴列1（第25図、写真図版18）

調査区北西端のX=-111236～-111244、Y=68219～68220付近に位置する。調査区中央やや西寄りに、南北方向に並ぶSP1～4の4個の柱穴状ピットを検出した。主軸方向は北北西～南南東方向、N4°Wである。柱間寸法は、真々寸法でいずれも6尺5寸（約197cm）が用いられている。SP1・4は、現場段階で柱あたりが確認できたため、柱間寸法が測定可能であった。整った柱間を持つため、建物に使用された柱穴と考えられるが、狭小な調査区もあり建物の全形を推定することはできなかつた。調査地の平場の形状が東西に長いことから推測すると、東西に桁行、南北に梁間の軸方向を持つ掘立柱建物である可能性がある。SP1埋土から、銅銭の寛永通寶（新寛永・初鑄年元禄10年（1697））1点が出土している。このことから、17世紀末葉以降の掘立柱建物を構成する柱穴と考えられる。

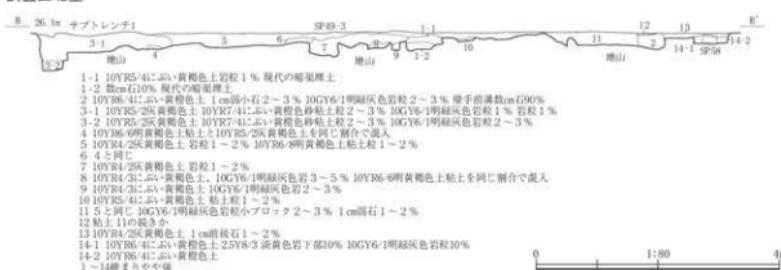


第25図 調査全体図

調査区西壁



調査区北壁

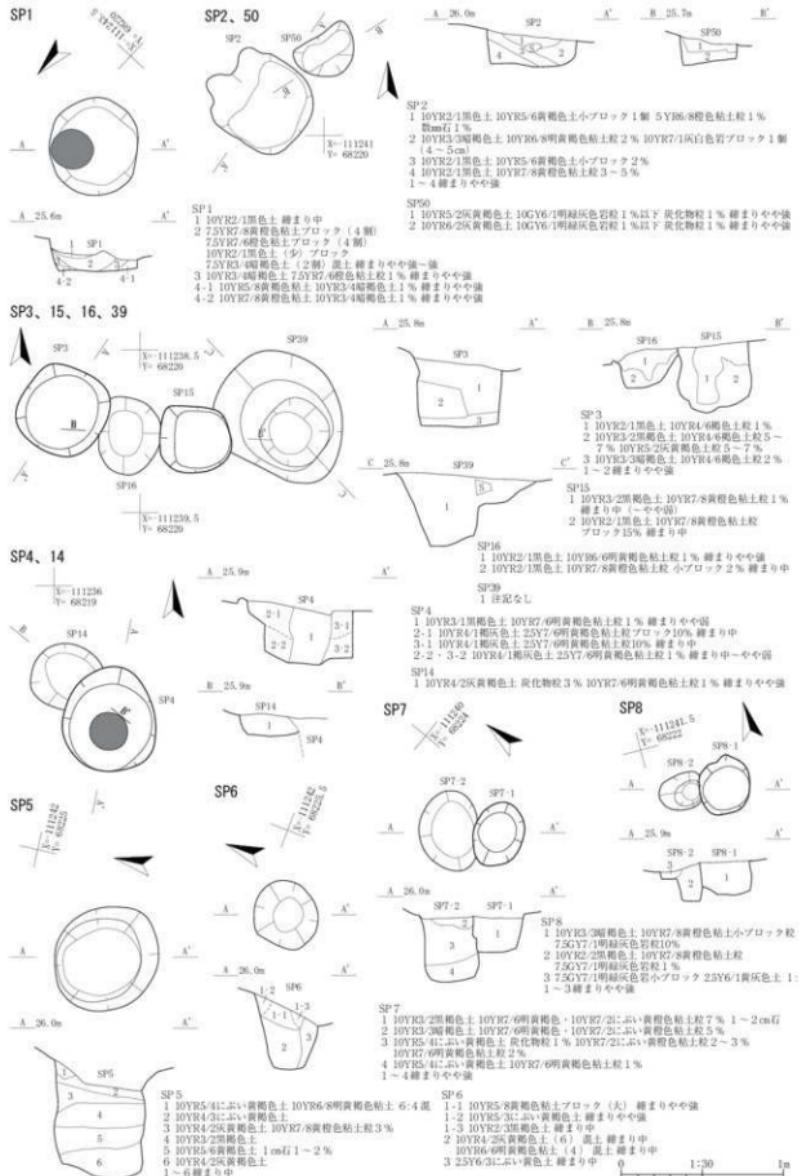


第 26 図 調査区西壁、北壁断面

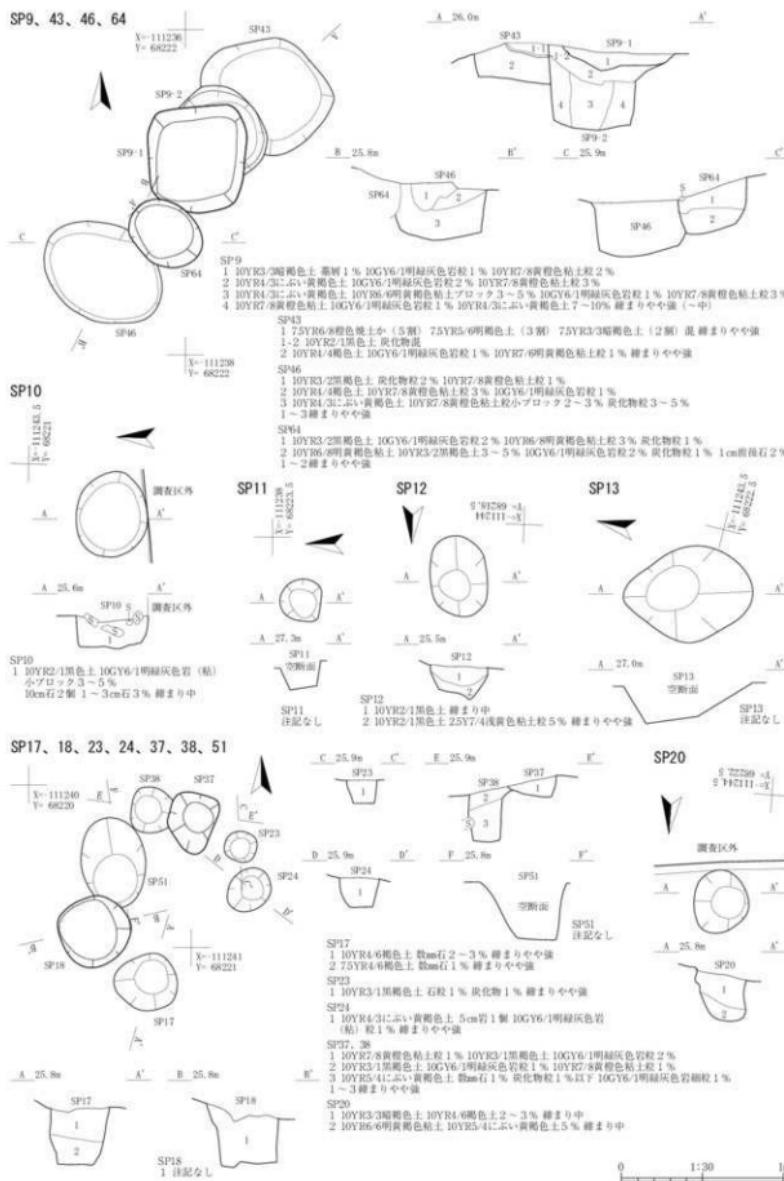
(3) 土 坑

SK1 土坑（第30図、写真図版21）

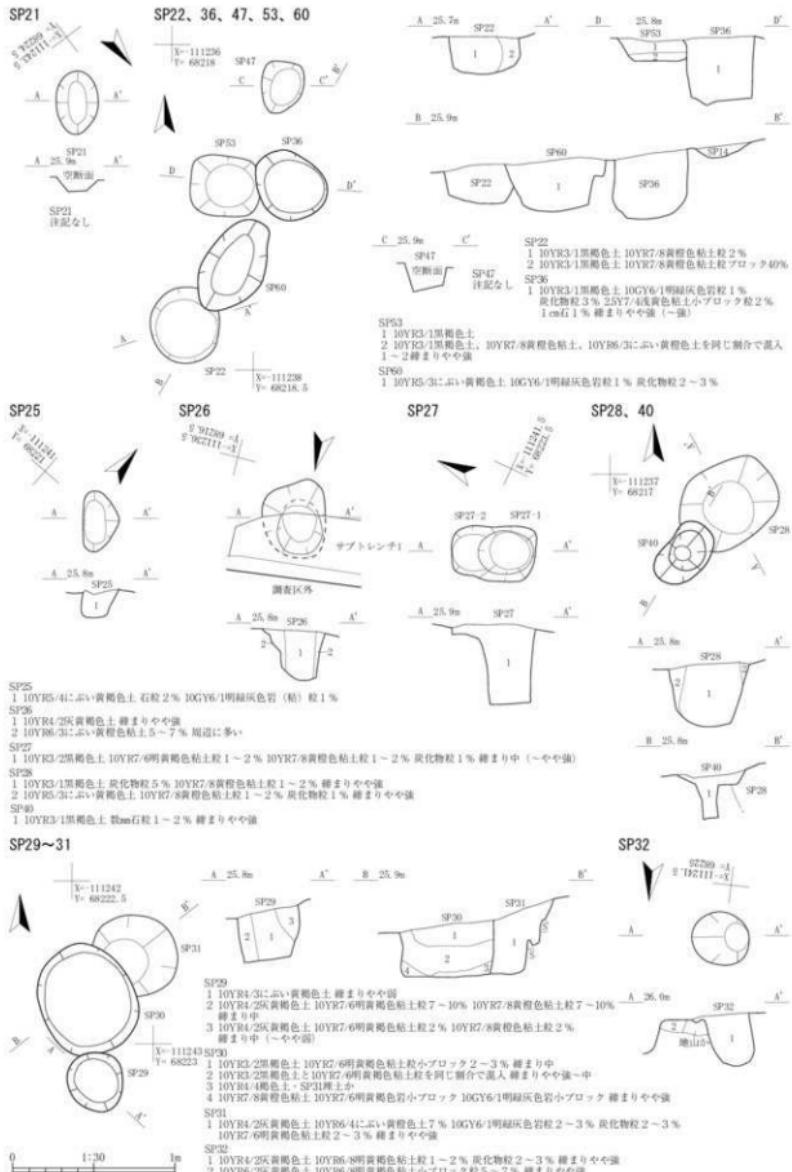
調査区中央や東寄りの X=-111240, Y=68223付近に位置する。3個の柱穴状ビットが南北に連結したような形状のプランで検出した。SP41・59に切られる。現場段階では、SK1-1～3の3つの坑の集合と捉えられており、南側がSK1-1、中央がSK1-2、北側がSK1-3に分けられる。SK1-1とSK1-2は連結しているが、SK1-3は間仕切り状に地山の大型礫が認められる。規模・形状は、SK1-1が(0.8)×0.7mの不整形で深さ0.36m、SK1-2が0.8×(0.45)mの不整形で深さ0.39m、SK1-3が0.84×0.6mの不整形で深さ0.46mを測る。断面はSK1-2のみ記録されており、下部にはい黄褐色土が堆積し、その後、薄い焼土・炭化物層を挟んで、混合土が堆積している。混合土は人為的な埋め戻しの可能性がある。写真図版21に示したが、SK1-2から縄文時代後期中葉の154土偶が出土した。この他に、後期中葉の24鉢、晚期前半の63深鉢、晚期前葉～中葉の84台付鉢か、晚期中葉の90浅鉢・95皿、晚期末葉の102鉢、128有茎石器が出土し掲載した。これよりも新しい遺物が出土しておらず不明だが、遺構形状は中世～近世の連結して見つかった柱穴状ビットであり、また遺物の時期の土坑と捉えれば縄文時代晚期に帰属すると考えられる。



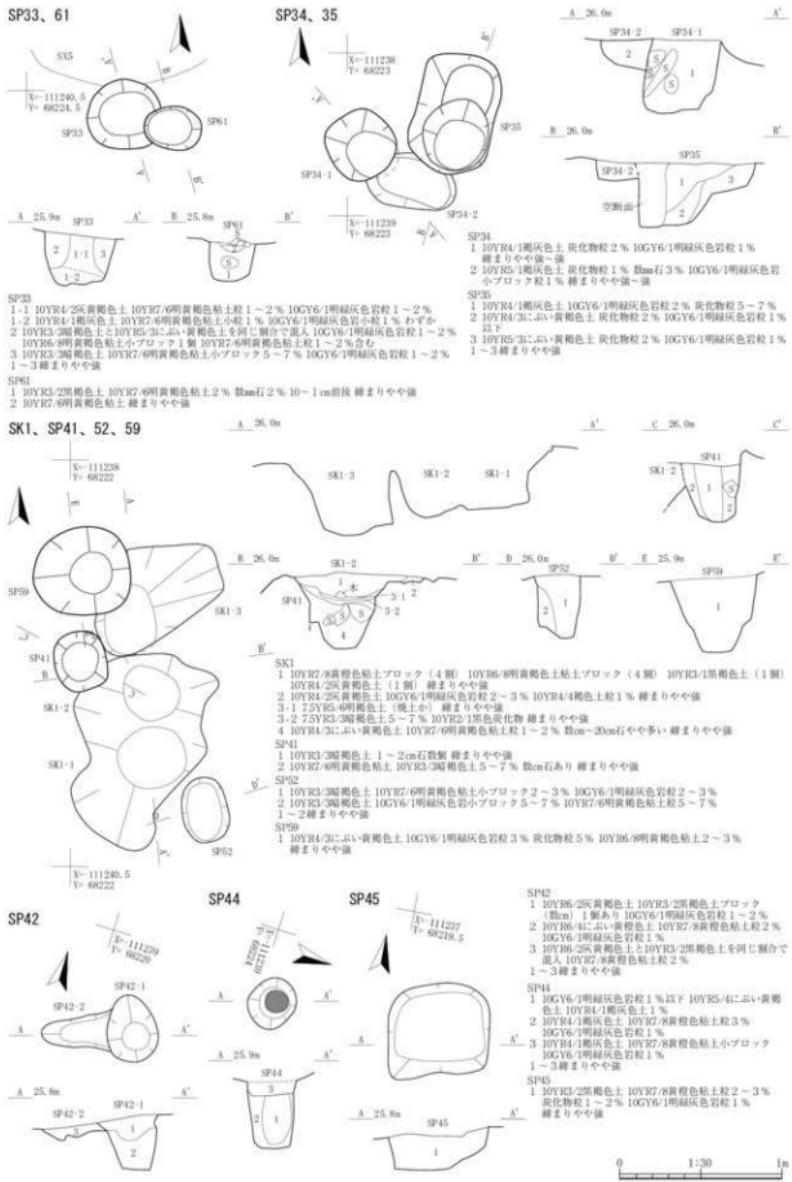
第27図 SP 1~8, 14~16, 39, 50柱穴状ビット



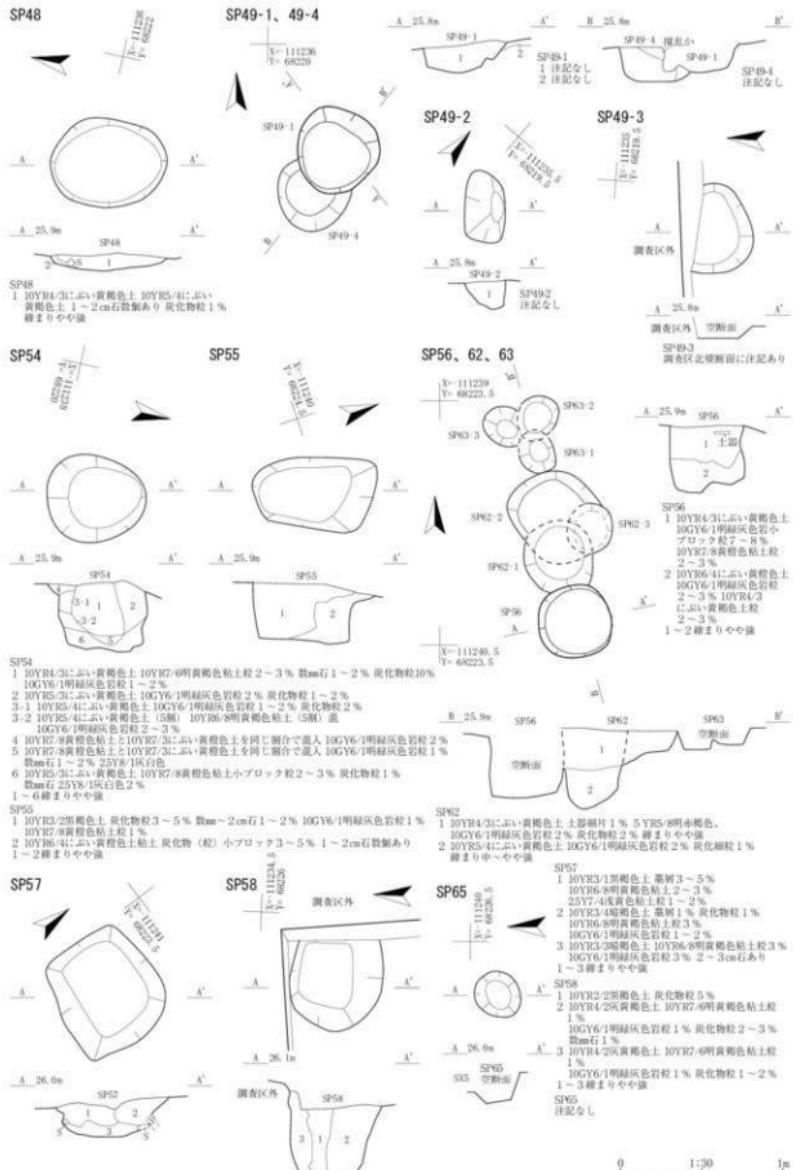
第28図 SP 9~13、17、18、20、23、24、37、38、43、46、51、64柱穴状ピット



第29図 SP21, 22, 25~32, 36, 40, 47, 53, 60柱穴状ピット



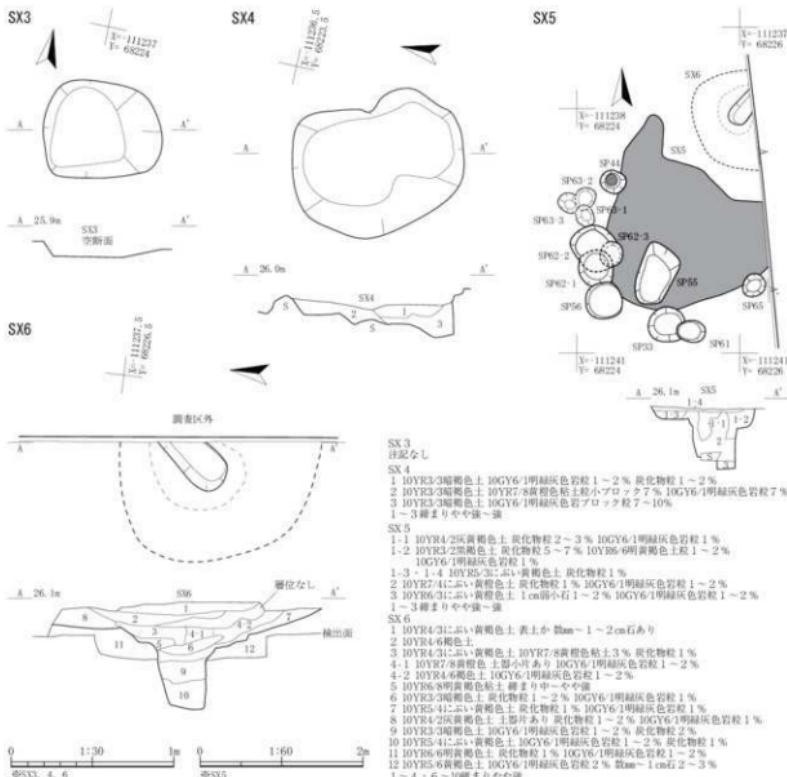
第30図 SK1土坑、SP33～35、41、42、44、45、52、59、61柱穴状ピット



第31図 SP48、49、54～58、62、63、65柱穴状ビット

(4) 柱穴状ピット

今回の調査から、柱穴列1の4個も含む柱穴状ピット78個を確認した。これらについて、第6表に柱穴状ピット計測表を示した。遺物観察表にも表示した通り、多くの柱穴状ピットから縄文時代や弥生時代の遺物を確認しているが、これらの遺物の大半は埋め戻し土に含まれていたものと考えられる。中にはこの時期の建物を構成する柱穴が含まれている可能性もあるが、柱穴列1の状況から考えると、中世～近世に含まれる柱穴状ピットが多いと考えられる。該期の出土遺物は、SP 6埋土下位から明鉄の永楽通寶(1408年初鑄)が出土している。慶長13年(1608)に、江戸幕府が通用禁止令を発布するまでは国内流通していたことから江戸時代初頭の可能性も否定できないが、SP 6は前述の柱穴列1の柱穴よりも規模が小さく、中世の柱穴も少なからず含まれると考えられる。このことから、二日市館に関連する遺構の広がりについても、今後検討を要する。



第32図 SX3・4・6性格不明遺構、SX5倒木痕

第6表 柱穴状ピット計測表

遺構名	グリッド	面積(cm)				底面標高(m)	備考
		上端 長軸	下端 短軸	上端 長軸	下端 短軸		
SP1	X=111243.5 Y=66230	60	54	48	45	13	25.290 柱穴列1
SP2	X=111241 Y=66230	64	55	53	33	19	25.730 柱穴列1
SP3	X=111240.5 Y=66230	59	53	48	43	41	25.210 柱穴列1
SP4	X=111239 Y=66230	64	58	53	49	34	25.380 柱穴列1
SP5	X=111242 Y=66230	70	62	47	39	60	25.070 朱秉遺跡
SP6	X=111242 Y=66235	42	38	21	18	39	25.430 朱秉遺跡
SP7-1	X=111240 Y=66231	41	30	24	22	21	25.650
SP7-2	X=111240 Y=66231	49	37	35	27	39	25.470
SP8-1	X=111241.5 Y=66232	37	31	29	25	20	25.570
SP8-2	X=111241.5 Y=66232	650	22	(11)	10	23	25.520
SP9-1	X=111236 Y=66232	73	59	65	48	11	25.710
SP9-2	X=111236 Y=66232	(70)	(56)	(46)	(41)	49	25.340
SP10	X=111243.5 Y=66231	53	44	42	36	18	25.270
SP11	X=111238 Y=662313	28	25	18	15	14	27.020
SP12	X=111241 Y=662315	49	35	20	17	20	25.160
SP13	X=111243.5 Y=662315	79	54	34	26	23	26.670
SP14	X=111236 Y=66230	(46)	40	(40)	36	13	25.630
SP15	X=111240 Y=66230	48	40	38	34	41	25.290
SP16	X=111240 Y=66230	48	(38)	28	21	23	25.440
SP17	X=111240 Y=66230	38	34	21	20	35	25.280
SP18	X=111240 Y=66230	45	42	36	32	35	25.270
SP19	記録なし						
SP20	X=111241.5 Y=662325	39	33	21	19	28	25.360
SP21	X=111241.5 Y=662315	39	26	26	11	9	25.740
SP22	X=111236 Y=66230	47	42	38	35	23	25.400
SP23	X=111230 Y=66230	21	18	13	11	14	25.660
SP24	X=111230 Y=66230	29	24	15	13	18	25.610
SP25	X=111241 Y=66231	37	22	26	13	16	25.560
SP26	X=111240.5 Y=66231.5	(49)	39	23	19	30	25.450
SP27-1	X=111241.5 Y=66231.5	35	34	25	22	49	25.370
SP27-2	X=111241.5 Y=66231.5	31	(17)	22	(17)	8	25.780
SP28	X=111237 Y=66231.5	64	49	33	30	38	25.320
SP29	X=111232 Y=66231.5	37	33	28	24	31	25.290
SP30	X=111232 Y=66231.5	68	58	57	52	33	25.320
SP31	X=111232 Y=66231.5	55	50	(31)	29	38	25.330
SP32	X=111241.5 Y=66231.5	35	32	17	15	32	25.610
SP33	X=111240.5 Y=66231.5	46	43	34	26	32	25.510
SP34-1	X=111238 Y=66231	45	41	(33)	27	46	25.420
SP34-2	X=111238 Y=66231	55	34	46	24	19	25.680
SP35	X=111238 Y=66231	75	49	32	29	40	25.440
SP36	X=111236 Y=66231.5	48	39	37	31	41	25.310

() : 残存値 () : 推定値

遺構名	グリッド	面積(cm)				底面標高(m)	備考
		上端 長軸	下端 短軸	上端 長軸	下端 短軸		
SP37	X=111240 Y=66230	39	29	19	18	12	25.690
SP38	X=111240 Y=66230	30	27	17	16	32	25.420
SP39	X=111240.5 Y=66230	87	71	27	24	44	25.320
SP40	X=111237 Y=66231	42	26	10	9	36	25.320
SP41	X=111238 Y=66231	38	32	23	21	34	25.540
SP42-1	X=111239 Y=66230	42	31	17	17	34	25.380
SP42-2	X=111239 Y=66230	(40)	20	(25)	14	7	25.540
SP43	X=111236 Y=66230	83	71	63	56	24	25.620
SP44	X=111239 Y=66230	32	27	19	18	41	25.360
SP45	X=111237 Y=66235	75	54	59	42	22	25.490
SP46	X=111236 Y=66235	79	59	72	48	35	25.290
SP47	X=111236 Y=66238	34	26	24	17	17	25.610
SP48	X=111236 Y=66232	71	54	66	47	10	25.690
SP49-1	X=111236 Y=66230	54	50	43	38	17	25.520
SP49-2	X=111235 Y=66235	46	25	19	7	17	25.550
SP49-3	X=111235 Y=66235	56	(33)	44	(22)	12	25.660
SP49-4	X=111236 Y=66230	(54)	49	42	(38)	21	25.460
SP50	X=111230 Y=66230	38	27	35	11	17	25.410
SP51	X=111230 Y=66230	56	39	30	27	35	25.310
SP52	X=111236 Y=66232	40	28	35	21	39	25.550
SP53	X=111236 Y=66232	48	37	30	26	13	25.580
SP54	X=111238 Y=66232	61	53	45	37	43	25.370
SP55	X=111230 Y=66235	76	42	58	32	36	25.410
SP56	X=111239 Y=66235	48	44	42	40	40	25.420
SP57	X=111230 Y=66235	84	63	59	40	21	25.690
SP58	X=111234.5 Y=66235	67	56	45	33	43	25.370
SP59	X=111238 Y=66232	60	53	26	25	45	25.370
SP60	X=111236 Y=66238	63	38	40	19	31	25.560
SP61	X=111235 Y=66235	35	26	27	21	24	25.440
SP62-1	X=111239 Y=66235	47	41	(33)	(30)	30	25.650
SP62-2	X=111239 Y=66235	(50)	50	41	37	49	25.370
SP63-1	X=111239 Y=66235	(31)	(27)	(24)	(21)	—	—
SP63-2	X=111239 Y=66235	(27)	21	14	11	12	25.740
SP63-3	X=111239 Y=66235	(29)	(24)	19	17	10	25.770
SP64-1	X=111239 Y=66235	27	23	13	11	—	—
SP64-2	X=111236 Y=66232	48	37	37	31	36	25.430
SP65	X=111230 Y=66235	30	27	29	15	14	25.510

(5) 遺物包含層（写真図版 21）

調査区南西端の X=-111240～-111245、Y=68215～68220 の範囲から、SX 2 現代の搅乱に切られる黒色の不整形プラン SX 1 を確認した。SX 2 と SPI2 に切られており、本遺構が古い。調査区西壁断面から 4-2 層黒色土主体で構成されている。現場段階では遺物包含層として認識されているが、整理段階にはば平坦な地形面に継やかな立ち上がりを持ち、南西方向に至って平坦な床面を作出していることから、堅穴住居跡の可能性も考えられる。もし、堅穴住居跡であれば、直径 5～6 m の円形～楕円形の平面形を有している可能性がある。埋土からは、縄文時代中期中葉の 2 浅鉢か、中期後葉の 3 深鉢、中期末葉の 5 深鉢、後期後半かの 56 台付壺、晚期末葉の 105 台付浅鉢、弥生時代中期中葉の 109 高杯・110～114、116～119 壺・120 鉢・121、122 壺、126・129・130 有茎石錐、138 石錐、149 四石が出土している。これら出土土器から、弥生時代中期中葉に廃絶した遺構と考えられる。

(6) 性格不明遺構

SX 3 性格不明遺構（第 32 図、写真図版 22）

調査区北東側の X=-111237、Y=68224 付近に位置する。規模・形状は、0.73×0.61 m の不整楕円形で深さは 0.08 m と浅い。土層は記録がなく不明である。埋土から、縄文時代後期中葉の 17 深鉢、後期後葉の 48 注口、後期～晩期の 80 深鉢が出土しており、遺構形状から縄文時代後期後葉に廃絶した土坑の可能性がある。

SX 4 性格不明遺構（第 32 図、写真図版 22）

調査区北東側の X=-111236.5、Y=68223.5 付近に位置する。規模・形状は、1.05×0.8 m の不整楕円形で深さは 0.2 m である。埋土は暗褐色土主体の 3 層で構成されており、1 層中に炭化物を少量含む。埋土から、縄文時代後期末葉の 49・50 深鉢、晚期初頭かの 60 鉢を出土しており、遺構形状から縄文時代晩期初頭に廃絶した土坑の可能性がある。

SX 6 性格不明遺構（第 32 図、写真図版 22）

調査区東端の X=-111237.5、Y=68226.5 付近に位置する。規模・形状は、1.23×0.73 m の不整円形で掘り鉢状になっており、深さは 0.65 m である。埋土は黄褐色～明黄褐色主体の 10 層で構成されており、現表土付近から掘削されている。埋土から、縄文時代中期末葉の 9 深鉢、後期後葉の 29・31 深鉢、晚期中葉の 75 深鉢、98 壺、136 石錐、144 磨製石斧が出土しているが、現代の搅乱に混入していた可能性がある。

(7) 倒木痕（写真図版 22）

調査区東端の X=-111238、Y=68224 付近に位置する、SX 5 とされた遺構である。SP33、44、55、56、62、65 に切られる。規模・形状は、2.4×(1.95) m の不整形で深さは 0.74 m である。埋土は灰黄褐色～にぶい黄橙色主体の 3 層で構成される。埋土から、縄文時代中期末葉の 11・13 深鉢、後期後葉の 39 浅鉢、後期末葉の 55 深鉢、晚期初頭の 62 注口か壺、晚期前半の 66 深鉢、晚期中葉の 99 壺が出土しており、掲載した。遺構の切り合いと出土土器から、縄文時代晩期中葉以降の柱穴状ピットの推定時期である中世～近世までの間に倒れたと考えられる。

5 出土遺物

今回の調査で出土した遺物のうち、土器 122 点、石器 31 点、土製品 1 点、石製品 1 点、陶磁器 2 点、金属製品 1 点、錢貨 3 点の計 161 点を掲載した。以下に、遺物の種類ごとに記載する。

(1) 土 器

今回の調査から、縄文時代中期、後期、晩期、弥生時代の土器が出土した。大半の造構時期が中世～近世と考えられ、この造構から出土した縄文土器や弥生土器は混入の可能性が高いことから、今回は推定される時期別に掲載した。しかし、小破片が多く捉え間違いが含まれる可能性もある。掲載にあたっては出土土器を時期ごとに I～IV群に分け、その上で特徴によってさらに細別した。なお、個別の特徴については観察表に記載している。

I群 縄文時代中期

A 類は中期中葉の大木 8a 式に相当し、短沈線が施文される（1・2）。B 類は中期後葉の大木 9 式古段階に相当し、口縁部文様帶を持つ（3）。C 類は中期末葉の大木 10 式古段階に相当し、沈線文主体で施文される（4～7）。D 類は大木 10 式中段階に相当し、微隆起線文、無文帶が主体で文様は横方向に展開する（8～11）。E 類は大木 10 式新段階に相当する。微隆起線文による文様表現を特徴とし、文様境界に鱗状突起を貼り付ける（12・13）。

II群 縄文時代後期

A 類は後期前葉後半の十腰内 I 式（新）に相当し、平行沈線文、渦文を施文する（14・15）。B 類は後期中葉の新山權現社 3 式に相当し、反転する弧線文や段違いの弧線文、横位刻目帯による区画を施文する（16～25）。C 類は、後期中葉後半の異方向羽状縄文が多用される（26～28）。D 類は後期後葉の瘤付土器第 I 段階に相当し、入組文、襷掛け文などの磨消文様が展開する（29・30）。E 類は同じく瘤付土器第 II 段階に相当し、貼瘤が口縁部や屈曲部、頸部に多用される（31～41）。F 類は同じく瘤付土器第 III 段階に相当し、刻目列などを用いて多段化した入組文が展開する（42～48）。G 類は同じく瘤付土器第 IV 段階に相当し、肥厚した台形突起の貼り付けや縄文や刻目が充填される 2 段の入組帶状文が多用され、貼瘤をはさむ持たないものである（49～55）。56 はミニチュアの台付壺、または台部に貫通孔を持つことから無文蓋の可能性がある。

III群 縄文時代晩期

A 類は晩期初頭の大洞 B 1～2 式に相当し、入組三叉文、魚眼状三叉文が展開する一群で、深鉢・鉢・注口か壺が出土している（57～62）。B 類は晩期前葉の大洞 B C 式に相当し、半肉彫り的な羊歯状文や珠文などが施文される。小破片のため明らかでないが、深鉢・鉢が出土している（63～74）。C 類は晩期中葉の大洞 C 1～2 式に相当し、雲形文や間延びした羊歯状文が施文される。深鉢は重層する平行沈線を施す九年橋型が見られ、その他に鉢・台付鉢・浅鉢・皿・壺が出土している（75～100）。D 類は晩期末葉の大洞 A' 式に相当し、変形工字文が展開する。文様帶幅は弥生時代前期の青木畠式に比べて狭い。器種は、鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺が出土している（101～106）。

IV群 弥生時代

A類は、前期の青木畠式に相当する高坏の台部である。B類は中期中葉の川岸場式に相当し、磨消縄文による鋸歯状文や連弧文、重菱形文などが施文される。高坏、壺、鉢、壺が出土している(107～122)。

(2) 石 器

石鎌 (123～135)

13点を掲載した。123～130が有茎、131～133が無茎平基、134・135が無茎凹基である。131無茎平基は黒曜石製で、成品または素材で遺跡に持ち込まれたと見られる。产地同定は実施していない。

石錐 (136～142)

7点を掲載した。136～140は二次加工が全面に及ぶもの、141は素材の形状を残すもの、142は端部に摩滅痕があるが元は石錐未成品の可能性がある。

スクレイバー類 (143)

1点を掲載した。143は全周に二次加工が施されており、別器種(石鎌か)の未成品もある。

磨製石斧 (144～146)

3点を掲載した。144は小形だが、中央付近に黒色付着物の痕跡があり、柄に装着されていた可能性がある。145は基部に欠損があり、再加工後に鑿として再利用したと考えられる。146は未成品と見られ、側縁に敲打による成形痕が残る。

磨石 (147・148)

2点を掲載した。いずれも両面に使用痕跡を有する。在地産の円礫を使用している。

凹石 (149)

1点を掲載した。端部を敲石として使用しており、二つの機能を併せ持っている。

敲石 (150・151)

2点を掲載した。いずれも端部に敲打痕を有する。

石皿 (152)

1点を掲載した。楕円形基調で中央に突起を持ち、縁に段差がある。縄文時代晩期か。

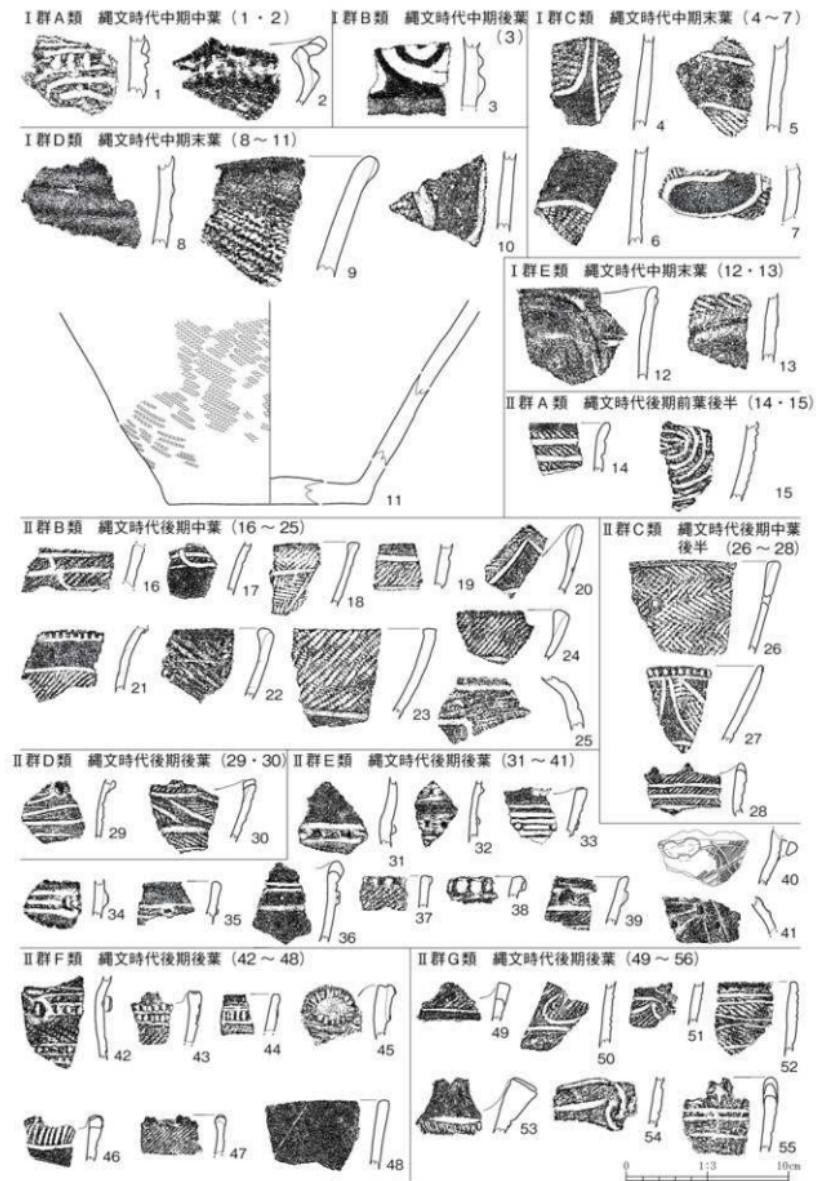
台石 (153)

1点を掲載した。正面に擦痕を有する。

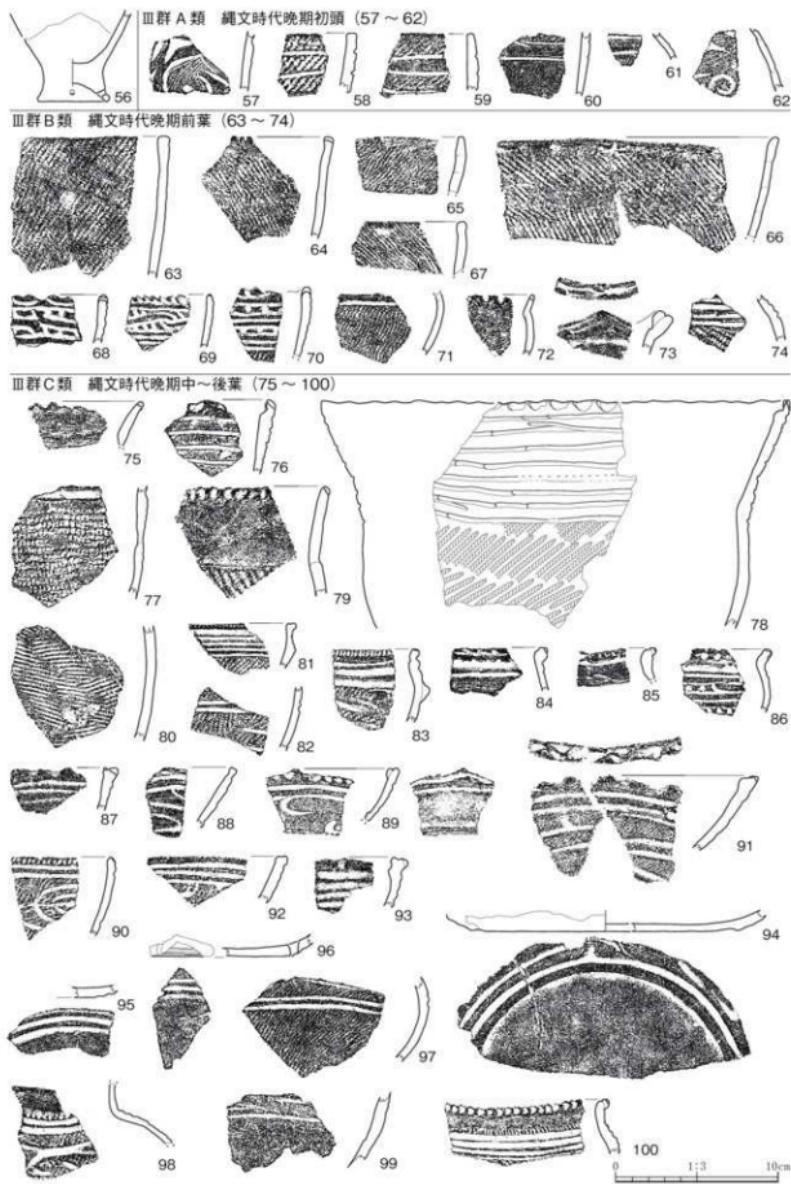
(3) 土 製 品

土偶 (154)

1点を掲載した。154は胴部下半で、隆線上に正中線刺突列を持つ。左脚部と付け根に黒色付着物

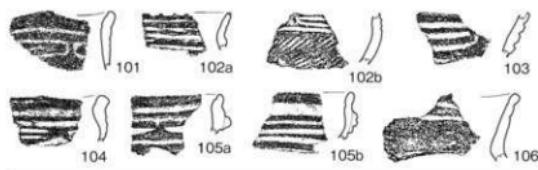


第33図 土器 (1)

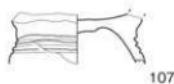


第34図 土器(2)

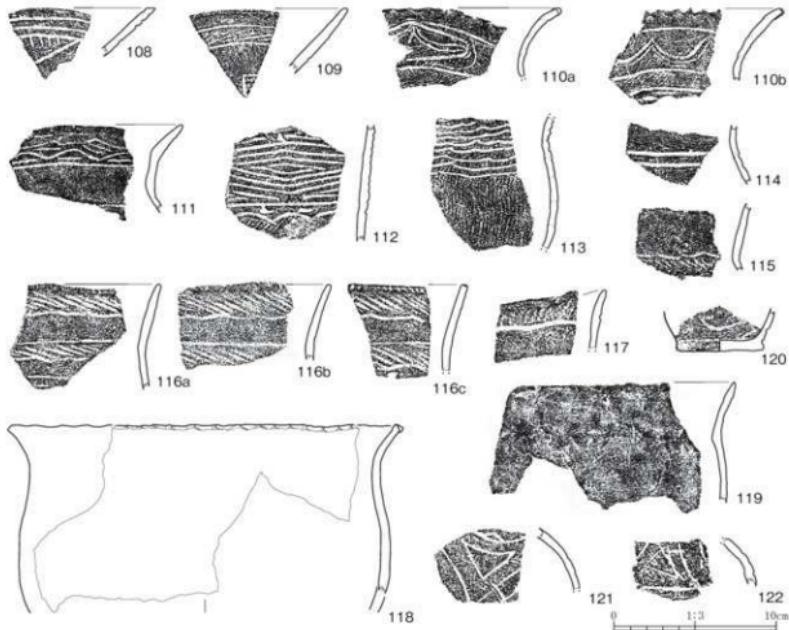
III群D類 繩文時代晩期末葉 (101 ~ 106)



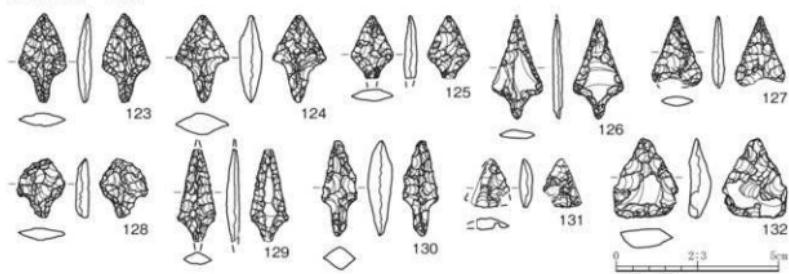
IV群A類 弥生時代前期 (107)



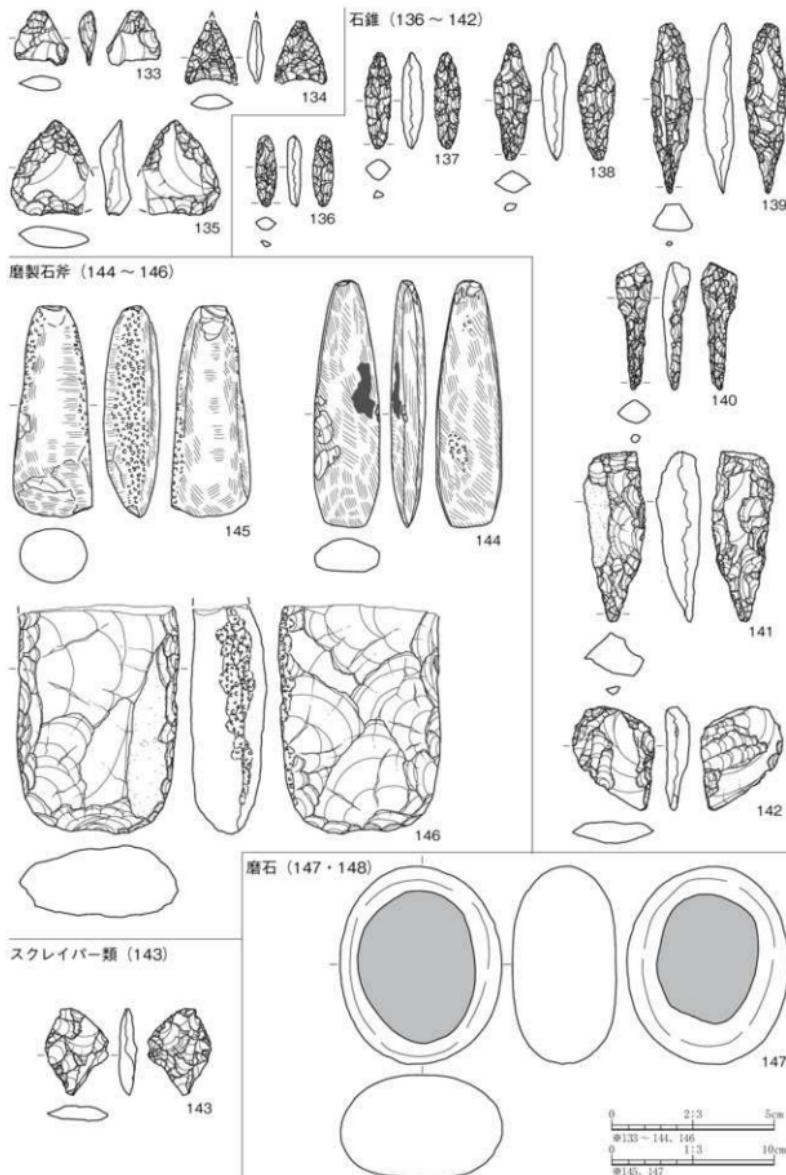
IV群B類 弥生時代中期中葉 (108 ~ 122)



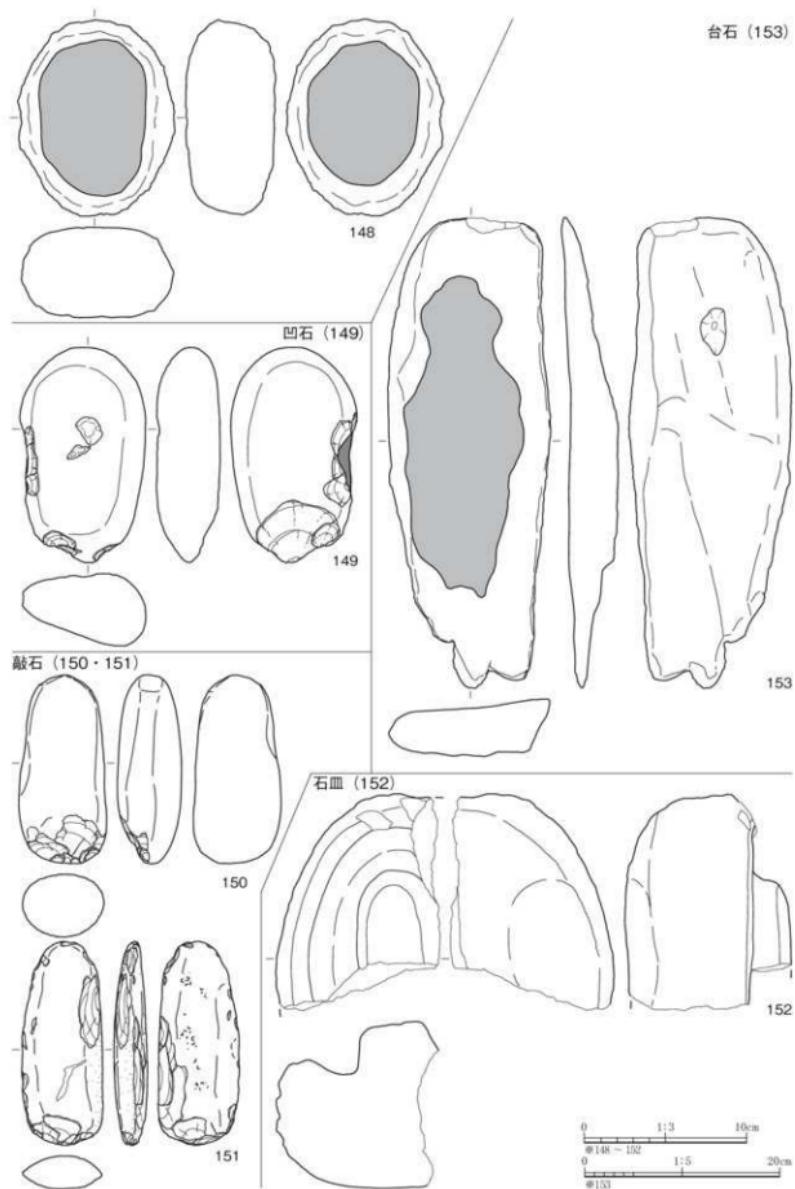
石器 (123 ~ 135)



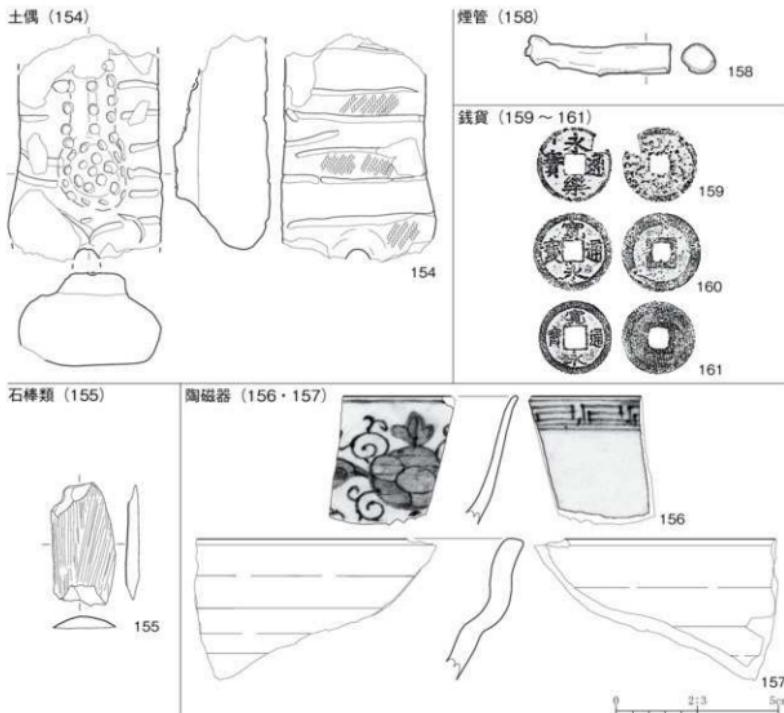
第35図 土器(3)、石器(1)



第36図 石器 (2)



第37図 石器 (3)



第38図 土製品、石製品、陶磁器、金属製品、錢貨

の痕跡があり、補修したと考えられる。縄文時代後期中葉か。

(4) 石 製 品

石棒類 (155)

1点を掲載した。石棒類の剥がれた表面の一部と見られる。

(5) 陶 磁 器

2点掲載した。156は瀬戸の磁器碗で19世紀前半、157は同じく瀬戸の擂鉢で18世紀の年代が考えられる。

(6) 金 属 製 品

煙管 (158)

1点を掲載した。火皿を欠損する煙管の雁首で、詳しい年代は不明だが、近世～近代と見られる。

(7) 錢 貨

永樂通寶 (159)

SP 6 柱穴状ピット埋土下位から出土した1点を掲載した。初鋤年1408年、中国明代に作られた銅錢で、室町時代に日明貿易で大量に輸入された。江戸時代初頭の慶長13年(1608)に江戸幕府によって流通禁止令が発布されるまで、国内に広く流通した。

寛永通寶 (160・161)

2点を掲載した。字体から、いずれも元禄10年(1697)に初鋤された銅錢の新寛永と見られる。背文字はない。

第7表 土器観察表(1~122)

測量 No.	国名	出土地点	層位	種類	保存状態	計測値(cm)	手筋跡・施文など		測定者	備考	登録 No.		
							上口径	下口径					
1	33	23	SK2トシナチ	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	63.9 口縁部に「支社空見」とある文施文。横文 「口縁部に「支社空見」とある文施文」。	施文ナシ	陶文ナシ/小口縁中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 144
2	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	浅鉢	削底	-	64.9 「ヨリバーハ」。削底は焼け、底に「ヨリバーハ」。 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 117
3	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	64.9 「ヨリバーハ」。底に「ヨリバーハ」。 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 130
4	33	23	SP96	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	65.5 側面に「支社空見」。底に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 67
5	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	65.9 「ヨリバーハ」。側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 105
6	33	23	SP72	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	66.0 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 3
7	33	23	SP72	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	66.3 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 49
8	33	23	SP3	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	66.6 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 66
9	33	23	SK6	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	67.0 「ヨリバーハ」。側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 62
10	33	23	SP56	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	67.9 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 74
11	33	23	SK5	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	68.0 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 100
12	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	68.5 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 146
13	33	23	SK5	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	69.0 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 186
14	33	23	SP94	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	69.0 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 53
15	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	69.6 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 170
16	33	23	SP9-2	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	69.6 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 38
17	33	23	SK3	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	70.2 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 22
18	33	23	SP9-1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	70.9 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 87
19	33	23	SP92	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	70.9 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 91
20	33	23	SK1	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	71.2 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 164
21	33	23	SP96	層土	陶文土器	1.8	深鉢	削底	-	71.9 側面に「支社空見」。	施文ナシ	陶文ナシ/中腹中腹 大本/丸鉢	人木・久保・大 47

測量 No.	測 定 部 位	出 土 地 点	地 理 位 置	標 高	傾 斜	基 準 面	基 準 面 高 度	計 測 距 離 (m)	測量結果		地 質 名	地 質 記 号	
									上 限 高 度	下 限 高 度			
22	33	SP49-2	埴土	埴土上部	Ⅱ B	水平	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-A
23	33	SP68	埴土	埴土上部	Ⅱ B	林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-B
24	33	SK1	埴土	埴土上部	Ⅱ B	林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-C
25	33	SK2	埴土	埴土上部	Ⅱ B	空	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-D
26	33	SK3	埴土	埴土上部	Ⅱ C	灌木	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-E
27	33	SK4	埴土	埴土上部	Ⅱ C	光林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-F
28	33	SK5	埴土	埴土上部	Ⅱ C	灌	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-G
29	33	SK6	埴土	埴土上部	Ⅱ D	灌林	倒壊	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-H
30	33	SK7	埴土	埴土上部	Ⅱ D	灌林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-I
31	33	SK8	埴土	埴土上部	Ⅱ E	深林	倒壊	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	II-J
32	33	SP64	埴土	埴土上部	Ⅲ E	灌林	倒壊	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-A
33	33	SP65	埴土	埴土上部	Ⅲ E	灌林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-B
34	33	SP7-35	埴土	埴土上部	Ⅲ E	林少	倒壊	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-C
35	33	SP76	埴土	埴土上部	Ⅲ E	林少	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-D
36	33	SP78	埴土	埴土上部	Ⅲ E	林少	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-E
37	33	SP79	埴土	埴土上部	Ⅲ E	林	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-F
38	33	SP79	埴土	埴土上部	Ⅲ E	林少	口縫部	-	43.0	42.8	「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。 「口縫部」等。平面、「口縫部」等。平面、「口縫部」等。	埴土	III-G

測量 年 月 日	測量 場所 名	写真 番号	出土地点	標記	測量		測量 員	測量 員	測量結果(2m)		測量部 位	測量 員	測量 員
					幅員	分幅			計量面積(2m)	面積			
39	33	23	SK5	原土.	測文士番	Ⅱ E	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
40	33	23	SPI4	原土.	測文士番	Ⅲ E	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
41	33	23	SP54	原土.	測文士番	Ⅳ E	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
42	33	23	SPI3	原土.	測文士番	Ⅴ E	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
43	33	23	SP96	原土.	測文士番	Ⅵ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
44	33	23	SPI4-35	原土.	測文士番	Ⅶ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
45	33	23	SP75	原土.	測文士番	Ⅷ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
46	33	23	SPI4	原土.	測文士番	Ⅸ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
47	33	23	SPI4	原土.	測文士番	Ⅹ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
48	33	23	SK3	原土.	測文士番	Ⅺ F	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
49	33	23	SK4	原土.	測文士番	Ⅻ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
50	33	23	SK4	原土.	測文士番	Ⅼ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
51	33	23	SPI9	原土.	測文士番	Ⅾ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
52	33	23	SP94	原土.	測文士番	Ⅿ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
53	33	23	SP94	原土.	測文士番	ⅰ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
54	33	23	SPI9	原土.	測文士番	ⅱ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田
55	33	23	SK5	原土.	測文士番	ⅲ G	面積	口頭添	-	-	測文士長 橋谷	付工長 吉田	付工長 吉田

測量 No.	測定 No.	出土地點	層位	標高	傾斜	測量位置	計測距離 (m)	測量 方法	測量 結果	測量 結果	測量 結果	測量 結果	測量 結果	測量 結果	測量 結果	
56	34	SX1(南半)	層土	測定士等	Ⅳ±1 ±2 ±3 ±4	新郎子等 新郎子等 新郎子等 新郎子等	- -(4.3) - -	6.60	少回頭立き調査、右屈筋は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	198	
57	34	SX96	層土	測定士等	ⅢA	深鉢	測量上半 上半	- -	6.60	少回頭立き調査、頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	33
58	34	SZ46-1-2-3	層土	測定士等	ⅢA	深鉢	口縁部	- -	6.7	頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	76
59	34	SZ47-35	層土	測定士等	ⅢA	深鉢	口縁部	- -	6.55	頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	65
60	34	SX4	層土	測定士等	ⅢA	林	胸屈	- -	6.39	頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	27
61	34	SX4	層土	測定士等	ⅢA	直口	胸屈	- -	6.15	頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	89
62	34	SX5	層土	測定士等	ⅢA	直口	胸屈	- -	6.38	頭位は側面から見て左側に張り出している。左側に頭位ナダ。	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	周文時代後期後半 小	181
63	34	SX1	層土	測定士等	ⅢB	深鉢	口縁部 上半	- -	6.7	平顔。頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 大	周文時代後期前半 大	周文時代後期前半 大	周文時代後期前半 大	周文時代後期前半 大	9
64	34	SX2	層土	測定士等	ⅢB	深鉢	口縁部	- -	6.25	「丁跡部」が左側に位置する。右側には頭位ナダ。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	50
65	34	SZ64	層土	測定士等	ⅢB	深鉢	口縁部	- -	6.34	平顔。頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	40
66	34	SX5	層土	測定士等	ⅢB	深鉢	口縁部	- -	6.25	頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	178
67	34	SZ64	層土	測定士等	ⅢB	深鉢	口縁部	- -	6.31	頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	55
68	34	SZ99	層土	測定士等	ⅢB	林	口縁部	- -	6.30	「丁跡部」が左側に位置する。右側には頭位ナダ。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	23
69	34	SZ1	層土	測定士等	ⅢB	林	口縁部	- -	6.25	平顔。頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	102
70	34	SZ2 トランナ	層土	測定士等	ⅢB	林	口縁部	- -	6.20	「丁跡部」が左側に位置する。右側には頭位ナダ。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	166
71	34	SZ18	層土	測定士等	ⅢB	林	胸屈	- -	6.37	「丁跡部」が左側に位置する。右側には頭位ナダ。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	25
72	34	SZ55	層土	測定士等	ⅢB	林	口縁部	- -	6.27	「丁跡部」が左側に位置する。右側には頭位ナダ。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	32
73	34	SZ33	層土	測定士等	ⅢB	浅鉢	口縁部	- -	6.27	平顔実立。頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	26
74	34	SZ32	層土	測定士等	ⅢB	直	測量上半	- -	6.28	頭位は側面から見て左側に張り出している。	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	周文時代後期前半 小	25

通巻 No.	年号	出土場所	層位	性質	分類	有効位置	計測値 (cm)		測定者	備考	登録 No.
							上段	下段			
75	34	SS6	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	6.5	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	34
76	34	層土	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C2-丸形袋足	108
77	34	SP15	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C2-丸形袋足	19
78	34	SP	層土	縄文土器	直筒	[19.5cm~ 縫合上半]	—	6.5	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	194と同一物体、人頭C2
79	34	SK1	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C2-丸形袋足	195
80	34	SK3	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	64
81	34	24	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	21
82	34	SP9	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	165
83	34	SP66	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	278
84	34	SK1	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	5
85	34	SP4	層土	縄文土器	直筒	[19.5cm~ 縫合上半]	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	84
86	34	24	層土	縄文土器	直筒	[19.5cm~ 縫合上半]	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	98
87	34	24	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	112
88	34	SP8	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	28
89	34	24	層土	縄文土器	直筒	[19.5cm~ 縫合上半]	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	42
90	34	SK1	層土	縄文土器	直筒	[19.5cm~ 縫合上半]	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	79
91	34	24	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C1-2丸かし	132~ 167
92	34	24	層土	縄文土器	直筒	口縫部	—	—	測定者: 佐野小里重	人頭C2-丸形袋足	153

測量 No.	測定 No.	出土地点	地質	層位	標高	分類	種別	有効深度	計測場所 (m)	測定箇所・被覆など		土質	特徴	備考	資料 No.
										上段	下段				
93	34	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3D	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Eは平行葉面を基に「葉」構造を示す。汽水Ⅰ帶文書類が混入する。	口縁部に砂層、根糸等を含む「葉」構造を示す。G3Fは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	46	
94	34	SP28	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3H	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Iは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	32		
95	34	SK1-2	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3J	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Kは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	44		
96	34	SP28	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3L	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Mは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	101		
97	34	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3N	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Oは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	131		
98	34	SK6	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3P	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Qは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	173		
99	34	SK5	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3R	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Sは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	151		
100	34	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3T	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Uは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	43		
101	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3V	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Wは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	118		
102a	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3X	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Yは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	61		
102b	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3Z	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Aは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	55		
103	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3B	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	128		
104	35	SP23	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3C	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	17		
105a	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3D	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Eは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	115		
105b	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3F	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Gは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	120		
106	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3H	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Iは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	150		
106	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3J	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Kは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	8		
107	35	SP23	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3L	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	155		
108	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3M	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Nは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	97		
109	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3O	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Pは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	169		
110a	35	SK1	層土	海生土Ⅱ带	海生土Ⅲ带	汽水Ⅲ	汽水Ⅲ	G3Q	平緩。竹葉形植物小葉、丁字葉等を含む「葉」構造を示す。G3Rは平行葉面を基に「葉」構造を示す。	磯文時代中期中層	大崩C1-2段	-	169		

通巻 No.	年号	出土場所	層位	種類	寸幅	厚さ	計測値 (cm)	測定部位 (cm)	測定部位 の特徴	備考	登録 No.	
1106	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	（4.4） 内径を施した文様面に、縁部は平。 丁文字を有する。	内径を施した文様面に、縁部は平。 丁文字を有する。	弘生時代中期中壇 112aと同一、川井塚式	110
111	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部～ 側面	-	6.5a 平縁。平底部に「口」文を施す。	縁部ナメ。縁部直 側面ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	133
112	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部～ 側面	-	6.71 内径を施した文様面に、縁部は平。 丁文字を有する。	縁部ナメ。直面直 側面ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	134
113	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部～ 側面	-	6.81 内径を施した文様面に、縁部は平。 丁文字を有する。	縁部ナメ。直面直 側面ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	135
114	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	側面	-	6.35 縁部に施した文様を有する。側面は 削れ。	縁部ナメ。削れ直 側面。	弘生時代中期中壇 川井塚式	133
115	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	4.40 内縁部に施した文様を有する。側面は直 側面。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	139
116a	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	6.40 2つて多孔化した側面に文様を有する。 内縁部に削れを有す。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 116a-cと同一、川井塚式	137
116b	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	4.40 2つて多孔化した側面に文様を有する。 内縁部に削れを有す。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 116a-cと同一、川井塚式	138
116c	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	6.29 2つて多孔化した側面に文様を有する。 内縁部に削れを有す。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 116a-bと同一、川井塚式	141
117	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部	-	6.35 内縁部から側面まで削れを有する。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	139
118	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部～ 側面	（24.8） -	（24.8） 「口」文を施した上に削れを有す。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	196
119	35	SX1-c-6ト	埴土	承甃土器	IV B	瓦	口径部～ 側面	-	6.75 縁部ナメから全面削れ。	縁部ナメ。全面 削れ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	2
120	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	側面	-	6.60 側面直。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	171
121	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	側面	-	6.73 内縁部から側面まで削れを有す。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	154
122	35	SX1	埴土	承甃土器	IV B	瓦	側面	-	6.9 内縁部から側面まで削れを有す。 縁部直。	縁部ナメ。	弘生時代中期中壇 川井塚式	157

第8表 石器観察表 (123~153)

編號 No.	國 國	石器 石器	出土點 出土點	測定 測定	種類 種類	石質 石質	產地 產地	直徑 直徑	周長 周長	厚度 厚度	備考 備考	登錄 登記
123	35	25	区内	横川2割目	石劍	桂質岩	北上山地	271	145	0.62	1.1 有黑	S1
124	35	25	SP71北半		石劍	桂質岩	北上山地	270	144	0.67	1.9 有黑	S7
125	35	25	SP5		石劍	貝岩	北上山地	1192	129	0.38	0.7 有黑、無底孔、底部に黑色付着あり。	S10
126	35	25	SN1	北半	石劍	貝岩	北上山地	1196	135	0.37	0.9 有黑、無底孔,	S4
127	35	25	区内	横川	石劍	貝岩	北上山地	1230	1320	0.36	0.8 有黑、無底孔	S2
128	35	25	SK1之半		石劍	貝岩	北上山地	128	147	0.40	0.9 有黑、無底孔及白色付着あり。	S9
129	35	25	SN1	半	石劍	貝岩	北上山地	1282	117	0.39	1.1 有黑、無底孔、無底孔	S3
130	35	25	SK1之半		石劍	貝岩	北上山地	233	108	0.73	1.5 有黑	S6
131	35	25	SP71西半		石劍	黑曜石	不詳	1180	117	0.38	0.5 無底孔及黑色付着あり。	S5
132	35	25	SP72		石劍	貝岩	北上山地	241	197	0.65	2.6 無底孔及白色付着あり。	S12
133	36	25	SP1西半		石劍	貝岩	北上山地	167	164	0.32	1.0 無底孔及白色付着あり。	S13
134	36	25	SP49-1		石劍	貝岩	北上山地	1391	1130	0.47	1.1 無底孔及白色付着あり。	S8
135	36	25	区内	横川	石劍	貝岩	北上山地	1282	1210	0.75	5.3 無底孔及白色付着あり。	S11
136	36	25	SK6		石劍	貝岩	北上山地	217	164	0.41	0.6 基面部に使用による變形あり。	S17
137	36	25	SP74西半		石劍	貝岩	北上山地	296	160	0.64	1.5	S16
138	36	25	SK1東半		石劍	貝岩	北上山地	337	112	0.75	2.4 基面部に使用による變形あり。	S15
139	36	25	SK6		石劍	貝岩	北上山地	520	127	0.95	5.3 無底孔及白色付着あり。	S14
140	36	25	SP55		石劍	桂質岩	北上山地	387	110	0.73	2.2 無底孔及白色付着あり。	S19
141	36	25	SP55		石劍	貝岩	北上山地	519	180	1.26	10.1	S20
142	36	25	黑土方毛	横川	石劍	貝岩	北上山地	344	245	0.69	5.5 無底孔及白色付着あり。	S21
143	36	25	SP43		石劍	桂質岩	北上山地	260	1180	0.48	1.5 黒色付着物あり、1/2欠。	S18
144	36	25	SK6		磨製石斧	砂岩	北上山地人馬道西側	726	139	1.03	2.54 所列のうち無底孔及白色付着物あり。部分を削除。	S22
145	36	25	黑土方毛		磨製石斧	ホルンフェルス	北上山地	1234	484	3.40	268.3 アリ。	S24
146	36	25	SP24-35東半		磨製石斧	桂質岩(後変成)	北上山地人馬道西側	696	432	2.27	130.3 内側少、外底扁平、側縁に加工痕あり。	S25
147	36	25	SP74西半		磨製石斧	石頭門崎岩	北上山地各施設付帯	1210	936	6.39	1327.2 正方形断面、無底孔。	S30
148	37	25	区内	横出	磨石	砂岩	北上山地各施設	1202	939	5.61	1063.8 正方形断面、無底孔。	S31
149	37	25	SK1之半		磨石+敲打	桂質石	北上山地各施設	1321	727	4.40	610.8 正方形断面、無底孔。	S29
150	37	25	区内	横出	磨石	桂質岩	北上山地各施設	1157	530	3.92	365.2 無底孔及白色付着あり。	S23
151	37	25	区内	横出	磨石	安山岩(後変成)	夷山山地	1255	437	1.94	169.5 内側少、外底扁平、側縁に加工痕あり。	S26
152	37	26	SP75東半		石劍	砂岩	北上山地人馬道西側	1130	1010	10.20	814.6 横刃有り、刃部が台形、1/2欠。	S27
153	37	26	SP74西半		石劍	砂岩(後変成)	北上山地人馬道西側	8550	1600	5.80	4726.7 正面に凹部あり、表面凹凸有り。	S28

() : 写真番

第9表 土製品觀察表 (154)

編號 No.	國 名	考察 所	出土地點 No.	部位	種類	保存状況	目測量 (cm)	高さ (cm)	出土人 及取扱い	出土 時間	備考	備考	登録 No.
154	36	26	SII 1 号	土岡	土岡	削平半 円形	G7.0 (4.8)	G7.0 (4.8)	86.4	1964.11.28	出土上に小切妻穴を有する平行脚部。直交し全高見。また、正中線の深部(1.2)に斜交穴を施す。左側の穴口は直付孔に通じる跡があつ。	出土時代後中期 包含する土器・陶器を欠損している。	1

第10表 石製品觀察表 (155)

編號 No.	國 名	考察 所	出土地點 No.	部位	種類	石質	保存 状況	目測量 (cm)	高さ (cm)	出土山地 等級	欠損部位	計測量 (cm)	高さ (cm)	重さ (kg)	時期	備考	登録 No.
155	36	26	SII 4 等	土岡	土岡	研磨半 圓形	研磨 表面	1.0	0.4	1.0	身端の一部が欠けた 身端	0.25	0.4	0.25	西文時代初期 包含あり	1	

第11表 陶磁器觀察表 (156~157)

編號 No.	國 名	考察 所	出土地點 No.	部位	種類	化粧 有無	目測量 (cm)	高さ (cm)	出土人 及取扱い	出土 時間	内面剥離・焼など	内面剥離・焼など	施土	備考	登録 No.
156	36	26	真長	土岡	土岡	無	1.0	0.5	直立筒形	—	—	—	白	2	
157	36	26	SII 2	松原	土岡	無	1.0	0.5	直立筒形	—	—	—	白	1	

第12表 金屬製品觀察表 (158)

編號 No.	國 名	考察 所	出土地點 No.	部位	種類	材質	保存 状況	目測量 (cm)	高さ (cm)	最大幅 (cm)	最小幅 (cm)	重量 (kg)	時期	備考	登録 No.
158	36	26	瓦岡	椚田 3 回目	細管	青銅	青銅	4.6	0.9	0.1	3.6	0.6	西文時代	複数	1

第13表 錢貨觀察表 (159~161)

編號 No.	國 名	考察 所	出土地點 No.	部位	種類	材質	保存 状況	目測量 (cm)	高さ (cm)	直径 (cm)	周長 (cm)	重さ (kg)	時期	備考	登録 No.
159	36	26	SII 6 古半	松原 103m	完全	青銅	青銅	2.37	0.32	0.14	1.14	1.08	西文	2	
160	36	26	SII 1 壴下	瓦岡	完全	青銅	青銅	2.51	0.35	0.16	1.39	1.68	10 年 (1697)	新嘗永	1
161	36	26	真長	瓦岡	完全	青銅	青銅	2.34	0.64	0.12	2.27	元禄 10 年 (1697)	新嘗永	3	

VI 調査のまとめ

1 川内遺跡

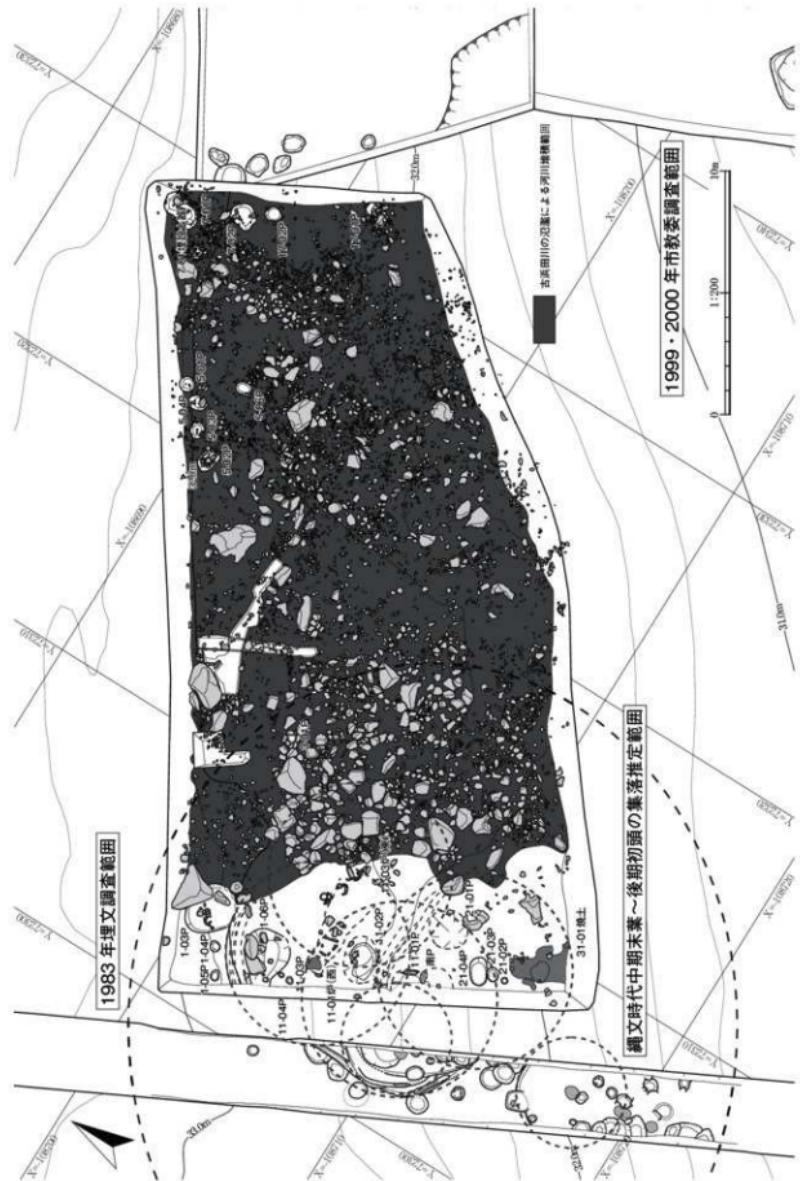
川内遺跡はこれまでの調査で、縄文時代中期～晩期、弥生時代前期～中期、古代、近世の複合遺跡であることが分かっており、今回の調査でもこれを追認する資料を得ることができた。1983年の調査から、古代、近世の遺構群は今回の調査区よりも北西側の標高38m付近に広がっている可能性がある。また、縄文、弥生時代の遺構群はより浜田川に近い標高30～35m付近に広がると考えられ、今回の調査区はちょうどこの範囲に収まる。また、集落範囲は浜田川の移動とともに位置を変えており、縄文時代中末葉～後期初頭は今回の調査区付近に集落が営まれたが、後期初頭～晩期前半では河川氾濫による側方移動により河川範囲となった。しかし、晩期前半以降は離水による陸地化が進み、1999・2000年調査で多量の遺物を出土した遺物包含層が形成されたと考えられる。縄文時代晩期の集落は調査区北側のやや標高の高い地点から、本調査区北半に占地したと推測される。また、今後の調査次第で、遺物のみが出土している弥生時代の遺構も確認される可能性がある。

2 二日市貝塚

二日市貝塚は、今回の調査で、縄文時代中期～晩期、弥生時代前期～中期、中世、近世の複合遺跡であることが分かった。特に、中世の時期には二日市館に関連する可能性がある建物群が形成されていたと考えられ、二日市館遺跡範囲には遺構が良好に残存すると思われる。また、調査区周辺の平坦地には、近世民家の存在が推測される。加えて、少量の遺物が集中して確認された弥生時代中期には、集落の広がりも指摘される。

参考文献

- 阿部昭典 2008「東日本の中期末葉から後期前葉の土器型式」「縄文時代の社会変動論」未完成考古学叢書6 p3-19（株）アム・プロモーション
- 石川日出志 2005「弥生中期谷起鳥式に後続する磨削縄文土器群」「岩手考古学」第17号 p7-24 岩手考古学会
- 樋村晃嗣 2008「門前式土器」「総覧縄文土器」p536-543（株）アム・プロモーション
- 金子昭彦 1994「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器－新山根現社遺跡Ⅱ群1～3類土器－」「紀要」XIV（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 金子昭彦 1996「十腰内I式（新）に併行する東北地方中部の土器（1）－新古の分離についての考え方」「縄文時代」7 縄文時代文化研究会
- 金子昭彦 1997「十腰内I式（新）に併行する東北地方中部の土器（2）－文様の系列化－」「縄文時代」8 縄文時代文化研究会
- 小林圭一 2008「瘤付土器」「総覧縄文土器」p568-577（株）アム・プロモーション
- 藤沼邦彦・間根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」「総覧縄文土器」p682-693（株）アム・プロモーション
- 本間宏 2008「南境式・網取式土器」「総覧縄文土器」p544-551（株）アム・プロモーション
- 森幸彦 2008「大木9・10式土器」「総覧縄文土器」p360-367（株）アム・プロモーション

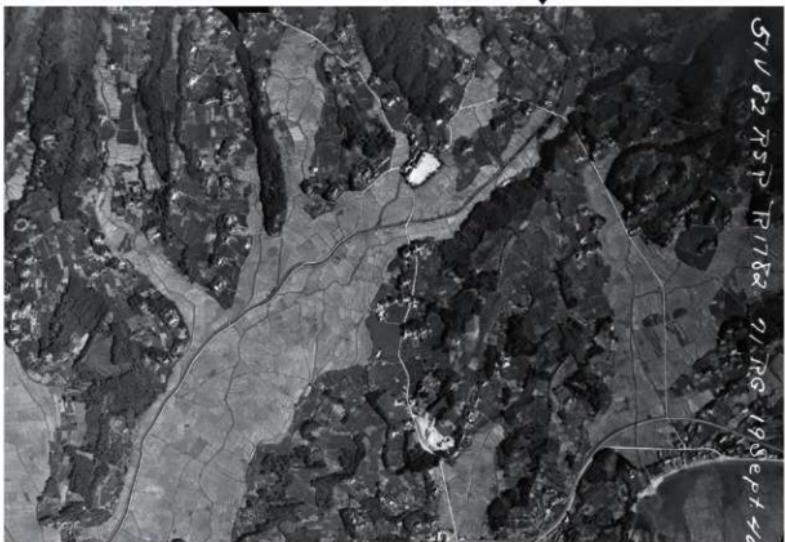


第39図 川内遺跡の遺構分布図

写 真 図 版



遺跡遠景（上が北、2015年5月20日国土地理院撮影）



遺跡遠景（上が北、1948年9月19日米軍撮影）



写真図版2 遺跡近景（左斜め上が北、直上から）



竪穴住居跡1・11-01 炉底に敷設された礫検出（西から）



竪穴住居跡1・11-01 炉断面（南から）



竪穴住居跡1・壁溝断面（東から）



竪穴住居跡1・11-03・04P 全景（東から）



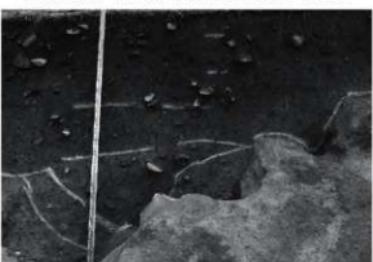
竪穴住居跡2・11-02 炉断面（東から）



竪穴住居跡2・11-02 炉埋設土器底の礫検出（東から）



竪穴住居跡2・11-03 炉断面（西から）



竪穴住居跡3・調査区西壁断面（北東から）



竪穴住居跡 3・31- 焼土検出 (南東から)



竪穴住居跡 3・31- 焼土断面 (北東から)



1-04P 断面 (南から)



1-05P 断面 (東から)



1-06P 全景 (北東から)



1-06P 断面 (北東から)



3-01P 全景 (北から)



5-01・03・04P 全景 (北西から)

写真図版4 竪穴住居跡 1～3 (2)、土坑 (1)



7-01P 断面（東から）



11-01P・南P 断面（北東から）



11-02P 断面（南東から）



17-01P 断面（南東から）



17-02P 全景（南東から）



21-01P 断面（北から）



21-02～04P 全景（東から）



7-01 土器埋設遺構検出（南東から）

写真図版5 土坑（2）、土器埋設遺構（1）



7-01 土器埋設遺構掘り方全景 (東から)



7-01 土器埋設遺構断面 (東から)



4区Ⅱ層土器出土状況 (北から)



河川堆積状況断面 (北から)



調査前現況 (西から)



表土除去後風景 (南西から)



調査風景 (南から)



調査風景 (北東から)

写真図版 6 土器埋設遺構 (2)、河川堆積状況、現況、調査風景

I群A類 縄文時代中期後葉（1～3）



I群B類 縄文時代中期末葉（4～11）



I群C類 縄文時代中期末葉（12～37）



写真図版7 土器（1）



写真図版 8 土器 (2)